

SystemGear

All Products For Build Up System

AppliBuilder

取扱説明書

日本システム開発株式会社

目 次

1 はじめに.....	3
2 システム構成	4
3 インストール.....	5
3.1 インストール.....	5
3.2 アンインストール	5
4 機能説明.....	6
4.1 パラメータ設定機能.....	6
4.2 データ転送機能	6
4.2.1 パラメータ解析ソフトウェア送信	6
4.2.2 設定パラメータ送信	6
4.2.3 マスタファイル送信	6
4.2.4 ターミナル蓄積データ受信	6
4.3 マスタファイル管理機能	6
4.4 アクション設定機能.....	6
5 起動方法.....	7
6 画面構成.....	8
6.1 メイン画面	8
6.2 アプリケーション設定画面	10
6.3 項目設定画面.....	12
6.3.1 「画面更新」項目の設定.....	15
6.3.2 「単純入力」項目の設定.....	16
6.3.3 「チェック付入力」項目の設定	17
6.3.4 「マスク検索」項目の設定	18
6.3.5 「ジャンプ」項目の設定	20
6.3.6 末尾項目の設定	21
6.4 バーコード設定画面	22
6.5 アクション設定画面.....	24
6.6 マスタファイル編集画面	25
6.7 フィールド設定画面.....	27
6.8 ファイル変換画面	29
7 操作方法.....	31
7.1 ターミナルアプリケーション開発の流れ	31
7.2 ファイルの新規作成.....	32
7.3 既存ファイルを開く	32
7.4 マスタファイルの編集	33
7.4.1 新規にデータを登録する場合	35
7.4.2 既存のマスタファイルをターミナル用に変換・編集する場合	35
7.4.3 ターミナル用に編集されているマスタファイルを使用する場合.....	36
7.5 パラメータの設定	37
7.6 アクション設定	37
7.7 パラメータ解析ソフトウェア送信	38
7.8 設定パラメータ送信	39
7.9 マスタファイル送信.....	40
8 ターミナルの設定と動作.....	41
8.1 ターミナル起動	41
8.1.1 初期起動	41
8.1.2 設定パラメータ受信	42
8.1.3 パラメータ受信異常	42
8.1.4 設定パラメータ論理チェック	43

8.2 起動画面	44
8.3 メニュー画面	44
8.3.1 メニュー画面表示	44
8.3.2 メニュー選択	45
8.4 補足機能	46
8.4.1 ターミナル I D 設定	46
8.4.2 システム日付・時間設定	46
8.4.3 各バージョン表示	47
8.4.4 通信速度設定	47
8.4.5 ファイルシステム表示	48
8.4.6 コントラスト調整	48
8.4.7 設定パラメータ受信	49
8.4.8 マスタファイル受信	51
8.4.9 送信メニュー	53
8.4.10 削除メニュー	55
8.4.11 電源切断	56
8.5 業務入力機能	57
8.5.1 ファンクションキー機能（入力モード）	57
8.5.2 ファンクションキー機能（参照モード）	65
8.6 注意事項	69
8.6.1 注意事項	69
8.6.2 エラー詳細	71
9 蓄積データファイルフォーマット	74
9.1 CSV 形式	74
9.2 固定長形式	74
10 困ったときは	75

1 はじめに

AppliBuilder (以下、本アプリケーションと称す) は、**MET-1000** (以下、ターミナルと称す) の入力データ・画面表示などの各種パラメータをパソコン (以下、**PC** と称す) 上で設定するアプリケーションです。自由度の高い設定メニューを用意していますので、どのような業務への展開も図れます。また、ターミナルアプリケーションの開発を容易でスピーディーに行うことができます。本書は、本アプリケーションの説明について記述したものです。

本アプリケーションは次の環境でご使用いただけます。

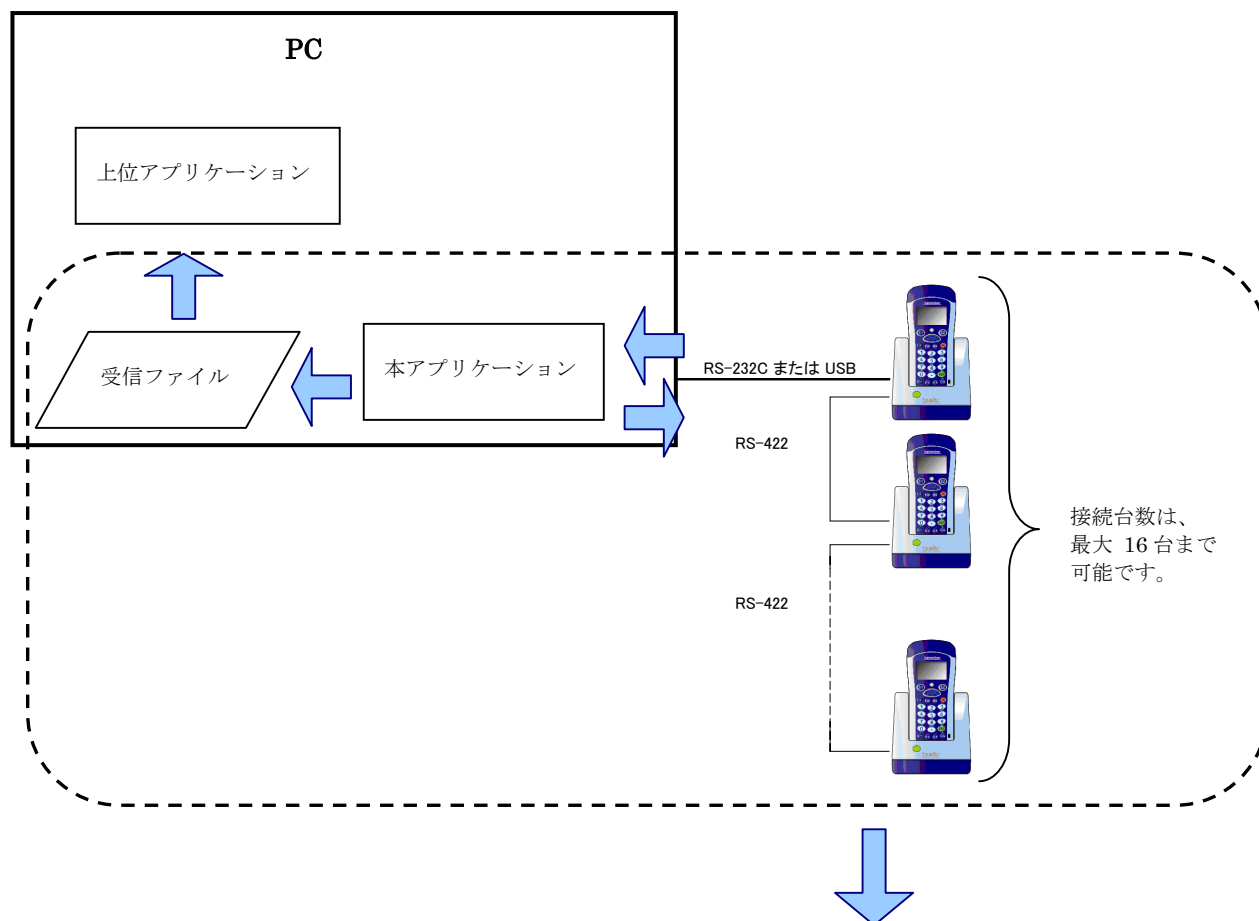
対応 OS	Windows 98 Windows 98SE Windows NT4.0 ServicePack6a 以上 Windows 2000 ServicePack2 以上 Windows Me Windows XP
推奨環境	CPU Pentium II 233MHz 以上
メモリ	128MB 以上
画面解像度	1024×768 ピクセル以上

※ WindowsNT に関して USB は未対応のため、RS-232C のみとなります。

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

2 システム構成

本アプリケーションのシステム構成を示します。ターミナルは 1～127 の範囲で ID を持つことができます。上位アプリケーションとの連動は本アプリケーションのアクション設定により可能です。



事例



発注、棚卸などの店舗管理システムに



集荷、検品などの物流管理システムに



投薬などの院内管理システムに

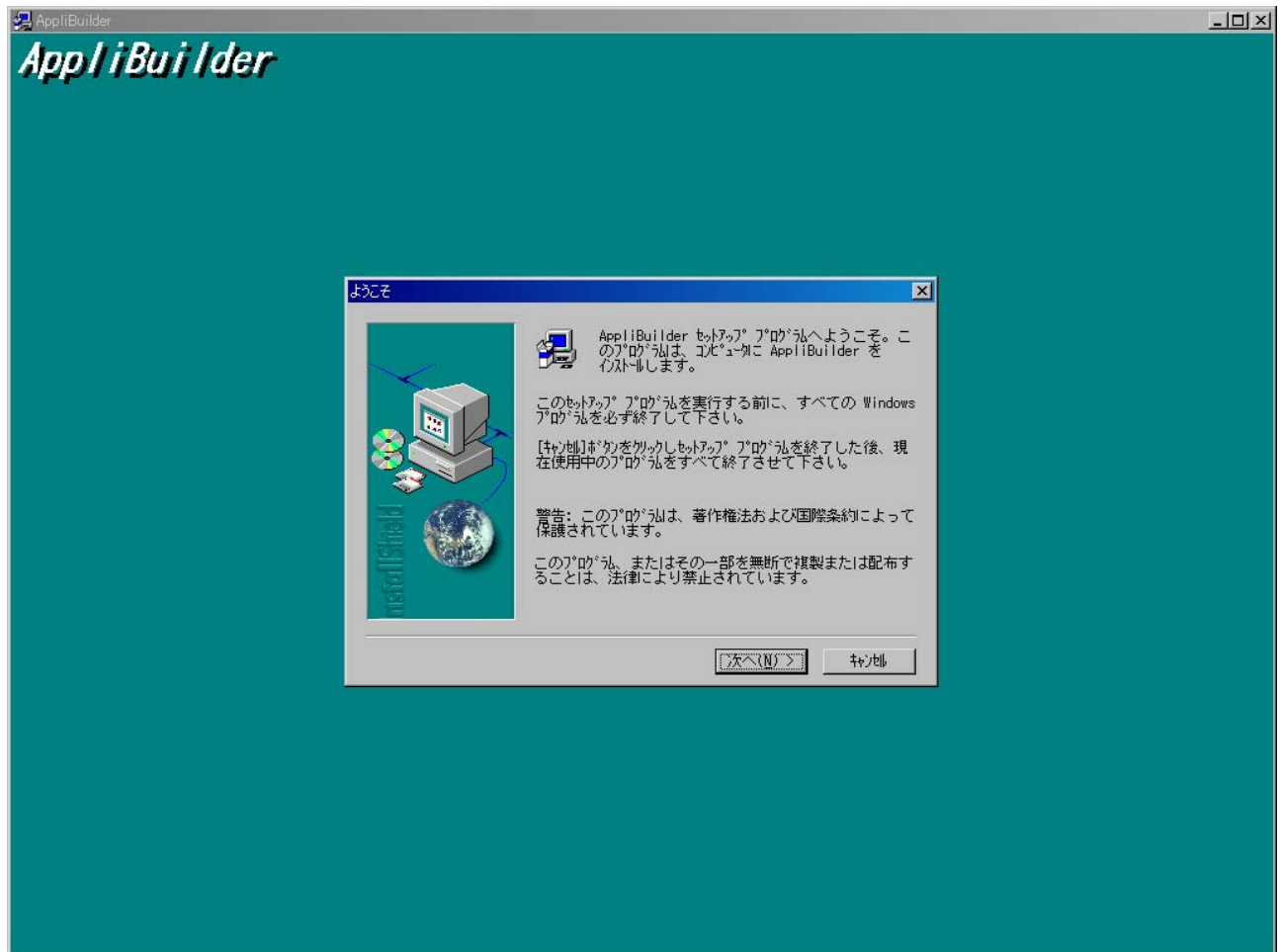
注意！！

- ・ USB接続の場合、光通信ユニットに付属しているUSBドライバーがインストールされていることが前提となります。
- ・ USB接続の場合、ケーブルの抜き差しは絶対にしないでください。

3 インストール

3.1 インストール

- ①本アプリケーションの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - ②インストールウィザードが自動的に起動されますので、画面に表示される指示にしたがってインストールを行ってください。
- (自動的に起動しない場合は、『アプリケーションの追加と削除』から起動、もしくはエクスプローラで CD 内の「APPLIBUILDER¥Setup.exe」を実行して起動してください。)



3.2 アンインストール

- 『アプリケーションの追加と削除』からアンインストールを行ってください。
- ※ファイルやフォルダが一部残る場合があります。その場合は、手動で削除をしてください。

4 機能説明

4.1 パラメータ設定機能

ターミナルアプリケーションのパラメータを設定します。
これらの情報をプロジェクトファイルとして保存することができます。

4.2 データ転送機能

4.2.1 パラメータ解析ソフトウェア送信

本アプリケーションで設定したパラメータを解析するソフトウェアを PC からターミナルへ送信します。
ターミナルは送信された設定パラメータに基づいて動作します。

4.2.2 設定パラメータ送信

本アプリケーションで設定したパラメータを PC からターミナルへ送信します。

4.2.3 マスタファイル送信

本アプリケーションで設定したパラメータで使用するマスタファイルを PC からターミナルへ送信します。

4.2.4 ターミナル蓄積データ受信

ターミナル内に蓄積した入力データを PC 上に受信します。アクション設定がされている場合、受信後自動的に設定されているプログラムが実行されます。アクション設定がされていない場合、受信データは CSV 形式でファイルに保存されます。

4.3 マスタファイル管理機能

CSV、もしくは固定長フォーマットで保存されている既存のマスタファイルを読み込み、ターミナル用に変換・編集します。また、マスタファイルを新規作成することもできます。

4.4 アクション設定機能

ターミナル蓄積データ受信後、設定されているコマンドラインを自動的に実行します。インターフェースの役割となる実行プログラムを設定することにより、どのような上位アプリケーションとも連携して動作することができます。

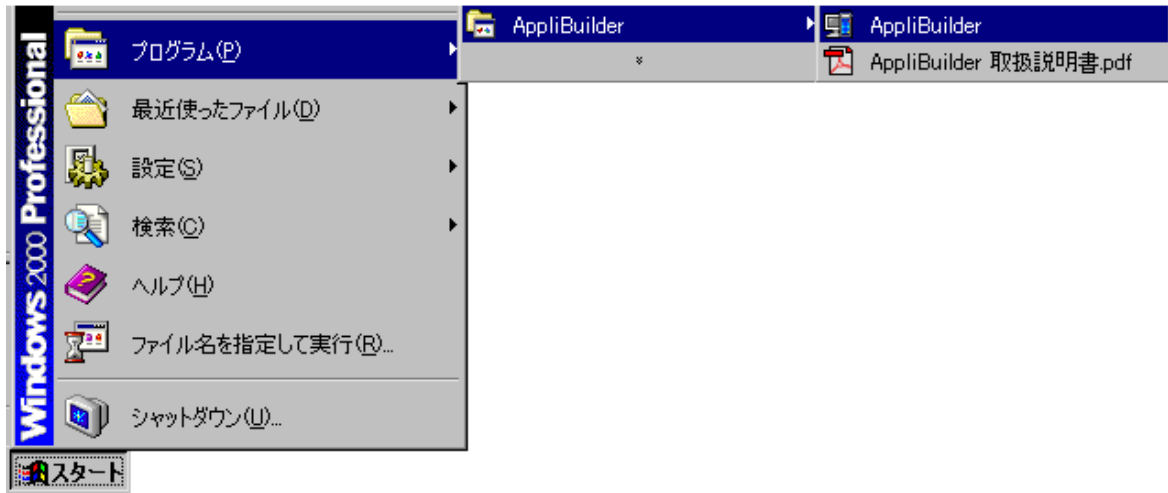
※アクション設定で起動される実行プログラムは別途開発が必要となります。

例.

- 蓄積データ受信後、自動的に FTP 転送で他のコンピュータにデータを転送する。
- 蓄積データ受信後、自動的に上位アプリケーション用のデータフォーマットに変換する。

5 起動方法

「スタート」→「プログラム(P)」→「AppliBuilder」→「AppliBuilder」をクリックして、本アプリケーションを起動します。



通信 DLL のバージョンが異なる場合には、以下のメッセージが表示され、本アプリケーションは起動しません。

本アプリケーションをアンインストールして、再度インストールしてください

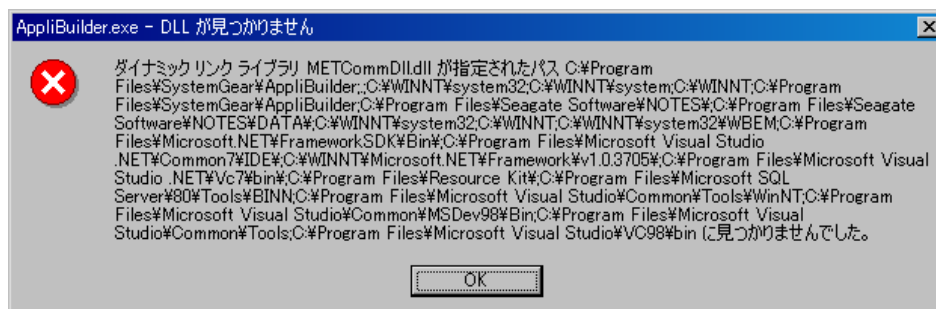


もしくは、



通信 DLL が見つからない場合は、以下のメッセージが表示され、本アプリケーションは起動しません。

本アプリケーションをアンインストールして、再度インストールしてください。

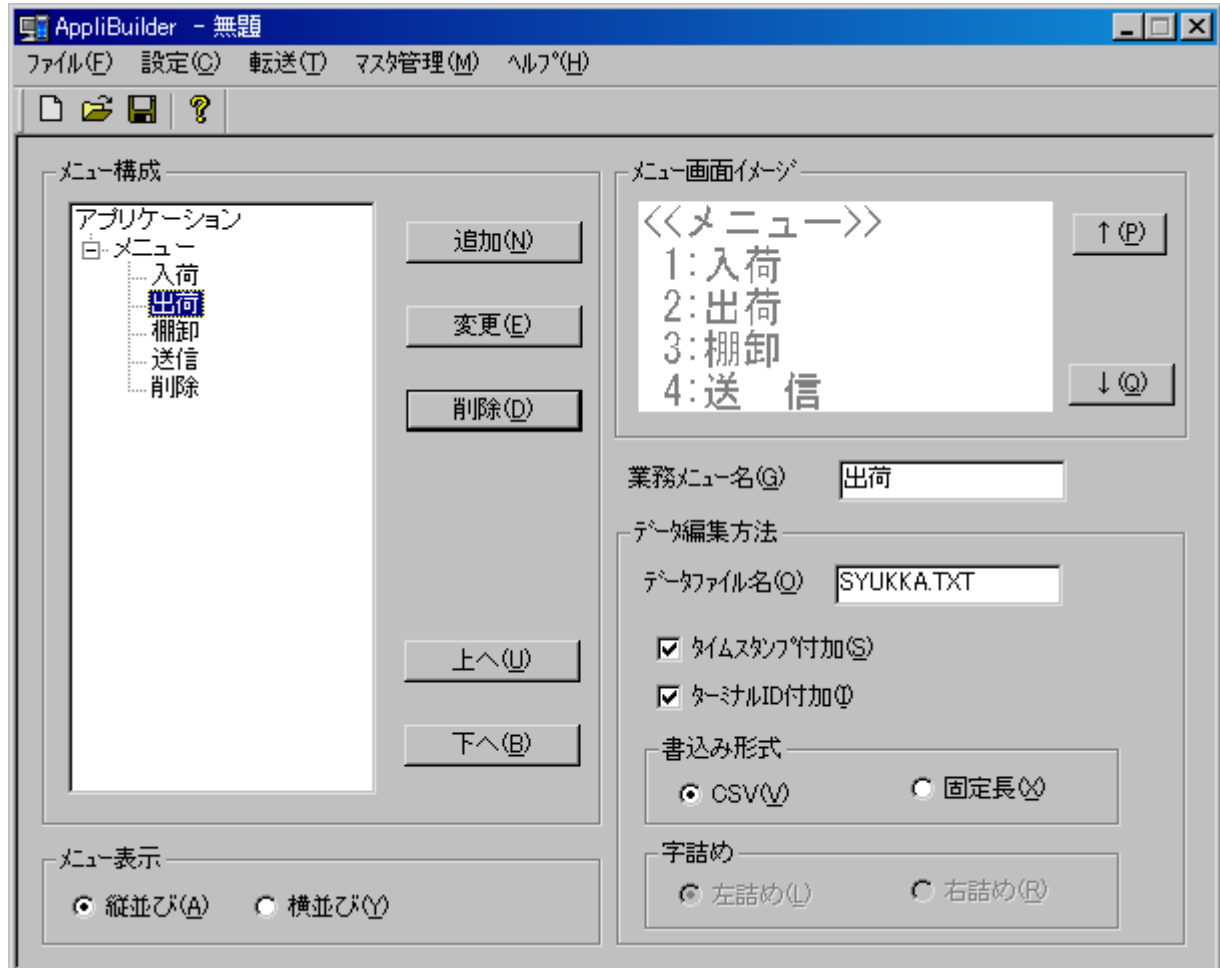


※上記のメッセージは OS によって異なる場合があります。

6 画面構成

6.1 メイン画面

本アプリケーションを起動すると以下のメイン画面が表示されます。



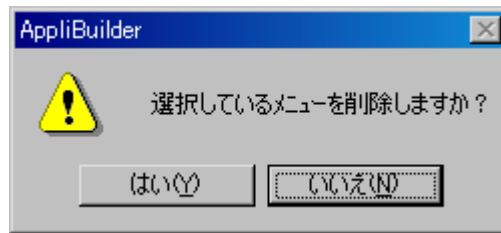
メイン画面ではターミナルアプリケーションの業務メニュー構成やデータ編集方法の設定、ファイル操作を行います。

「メニュー構成」:メニュー構成を設定します。業務メニューの登録や削除の操作は「追加」、「変更」、「削除」ボタンを、業務メニューの順番の操作は「上へ」、「下へ」ボタンをクリックして行います。
デフォルト業務メニューとして、『入荷』、『出荷』、『棚卸』、『送信』、『削除』が初期表示されます。
『送信』、『削除』メニューのパラメータは固定ですので変更や削除はできません。

「追加」ボタン:クリックすると、選択されている位置に新規業務メニューが追加されます。

「変更」ボタン:クリックすると、選択されている業務メニューの項目設定画面が表示されます。各メニューの入力項目や画面表示設定を行います。

「削除」ボタン: クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択している業務メニューを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

「上へ」ボタン: クリックすると、選択しているメニューを1つ上に移動します。

「下へ」ボタン: クリックすると、選択しているメニューを1つ下に移動します。

「メニュー表示」ラジオボタン: メニュー画面での表示方法を設定します。縦並びが選択されている場合は縦並びで、横並びが選択されている場合は横並びでメニューが表示されます。横並びになった場合、ターミナル画面の表示領域の都合上、業務名の3文字目以降は表示が切り取られます。

「メニュー画面イメージ」: ターミナル上でのメニュー画面のイメージを表示します。

「↑」ボタン: クリックすると、「メニュー画面イメージ」を1行上にスクロールします。

「↓」ボタン: クリックすると、「メニュー画面イメージ」を1行下にスクロールします。

「業務メニュー名」: 業務メニュー名を設定します。変更されると、「メニュー構成」の対応する業務メニュー名が変更されます。

「データ編集方法」: 入力データの編集方法を設定します。メニューごとに設定します。

「データファイル名」エディットボックス: 入力データ保存ファイル名を設定します。ターミナルで利用できる8.3形式で設定します。

「タイムスタンプ付加」チェックボックス: データ入力時のターミナルのシステム日付をデータに付加するかどうかを設定します。チェックがついている場合は付加設定になります。

「ターミナルID 付加」チェックボックス: ターミナル ID をデータに付加するかどうかを設定します。チェックがついている場合は付加設定になります。

「書込み形式」ラジオボタン: データの書込み形式を設定します。CSV が選択されている場合は CSV 形式で、固定長が選択されている場合は固定長形式でデータの書き込みを行います。

「字詰め」ラジオボタン: 「書込み形式」が固定長に設定されているときの字詰めを設定します。左詰めか右詰めかを選択します。

6.2 アプリケーション設定画面

メイン画面で「設定(C)」メニューの「アプリケーション設定(A)」を選択、もしくは「メニュー構成」で『アプリケーション』が選択されている状態で「変更」ボタンをクリックすると、以下のアプリケーション設定画面が表示されます。

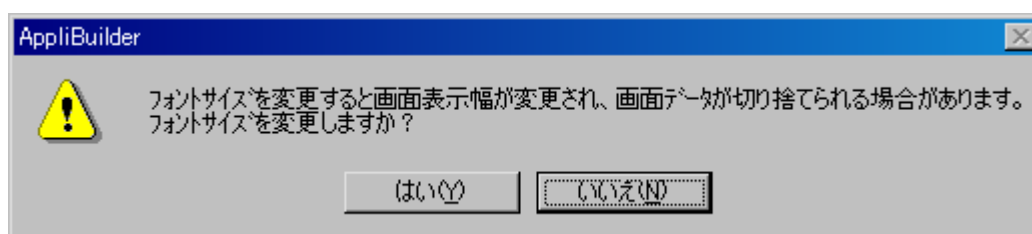


アプリケーション設定画面では、ターミナルアプリケーション固有のパラメータを設定します。

「**起動画面**」: 起動画面の設定を行います。「起動画面を表示する」にチェックをつけると、「起動画面」エディットボックスが有効状態になります。手入力で起動画面の表示内容を設定します。

「**バージョン**」エディットボックス: アプリケーションのバージョン情報を設定します。

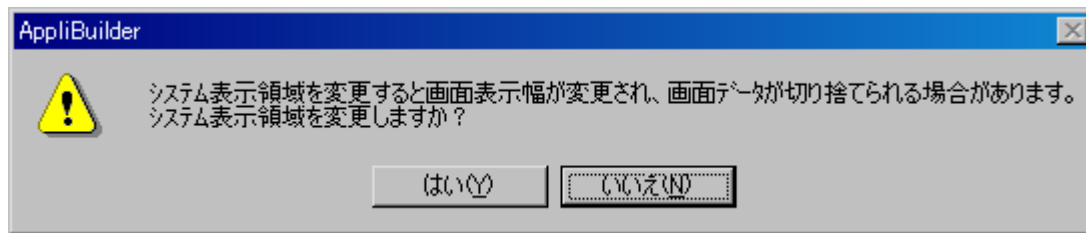
「**フォントサイズ**」ラジオボタン: 文字表示フォントサイズを指定します。フォントサイズを変更しようとする時、確認メッセージを表示します。



「はい」ボタンをクリックすると、フォントサイズを変更します。「いいえ」ボタンをクリックすると変更は行いません。

フォントサイズを変更した場合は、項目設定画面で画面イメージ内容を確認し、必要であれば修正を行ってください。

「システム表示領域を表示する」チェックボックス：システム表示領域を表示するかどうかを設定します。設定を変更しようとする、確認メッセージを表示します。



「はい」ボタンをクリックすると、システム表示領域を変更します。「いいえ」ボタンをクリックすると変更は行いません。

システム表示領域を変更した場合は、項目設定画面で画面イメージ内容を確認し、必要であれば修正を行ってください。

「環境設定」：ターミナルの環境設定を行います。

「キーバックライト連動」ラジオボタン：キー入力を行ったときに、バックライトを連動して ON にするかどうかを設定します。

「バックライト時間」エディットボックス：バックライト点灯時間を設定します。

「自動電源 OFF 時間」エディットボックス：ターミナル操作を行わなかったときに自動電源 OFF される時間を設定します。

「レジューム設定」ラジオボタン：ターミナルを再起動したときのレジュームを ON にするかどうかを設定します。

「キークリック時にブザー鳴動する」チェックボックス：キークリック音を鳴らすかどうかを設定します。

「バーコード正常読取時にブザー鳴動する」チェックボックス：バーコードを正常に読み取ったときにブザーを鳴らすかどうかを設定します。

「バイブレータ振動する」チェックボックス：バイブレータを振動するかどうかを設定します。

「キークリック時の LED 点灯」コンボボックス：キーをクリックしたときに LED を点灯するかどうかを設定します。点灯なし／緑色点灯／赤色点灯／橙色点灯の中から選択可能です。

「OK」ボタン：クリックすると、アプリケーション設定を反映してメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン：クリックすると、アプリケーション設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

「適用」ボタン：クリックすると、アプリケーションの項目設定を反映します。その後「キャンセル」ボタンをクリックしても、「適用」ボタンをクリックした時点までのアプリケーション設定は反映されています。

6.3 項目設定画面

メイン画面で設定したい業務メニューを選択して「変更」ボタンをクリックすると、選択した業務メニューの項目設定画面が表示されます。

項目設定画面では、業務メニュー内容の各項目を設定します。

「**入力項目設定**」: 入力項目の構成を設定します。項目の追加の操作は「画面更新」、「単純入力」、「チェック入力」、「マスタ検索」、「ジャンプ」のボタンを、項目の削除の操作は「削除」ボタンを、項目の順番の操作は「上へ」、「下へ」ボタンをクリックして行います。

「**項目名**」リストボックス: 追加された項目を表示します。ターミナル上での作業は項目名リストボックスの上から順に行われます。リストの一番下には、末尾の項目まで進んだ後どの項目に戻るか、設定されている項目が表示されます。

「**追加**」: 項目の追加を行います。各ボタンをクリックするとボタンと対応する項目が「項目」リストボックスに追加されます。

「**画面更新**」ボタン: クリックすると、画面更新項目が「項目」リストボックスに追加されます。

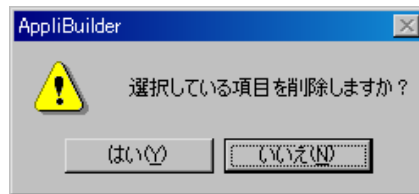
「**単純入力**」ボタン: クリックすると、単純入力項目が「項目」リストボックスに追加されます。

「チェック付入力」ボタン:クリックすると、チェック付入力項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

「マスタ検索」ボタン:クリックすると、マスタ検索項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

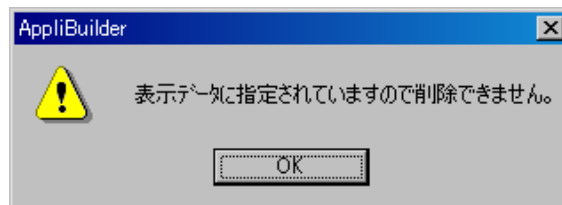
「ジャンプ」ボタン:クリックすると、ジャンプ項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

「削除」ボタン:クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。

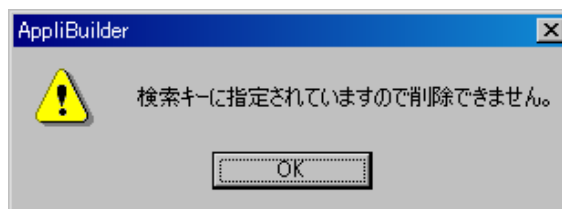


「はい」ボタンをクリックすると、選択されている項目を削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

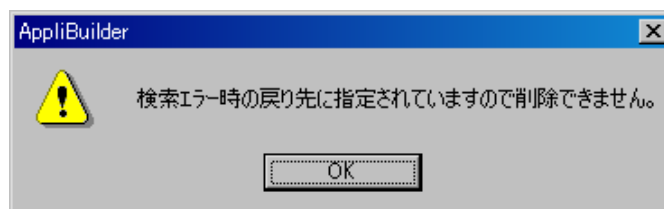
表示データに指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。



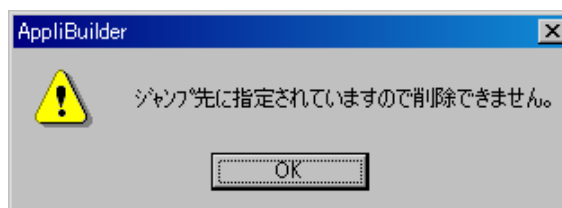
マスタ検索キーに指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。



マスタ検索エラー時の戻り先に指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。



ジャンプ先に指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。



「上へ」ボタン:クリックすると、選択されている項目を1つ上に移動します。

「下へ」ボタン:クリックすると、選択されている項目を1つ下に移動します。

「データ参照時の件数表示位置 (X,Y)」: ターミナルでデータ参照するときの件数表示先頭位置を設定します。

「表示／非表示」ボタン: 画面イメージに件数表示イメージを表示するかどうかを操作できます。
「表示」ボタンのときにクリックすると、件数表示イメージが画面イメージに表示され、「表示」ボタンが「非表示」ボタンに変わります。「非表示」ボタンのときにクリックすると、件数表示イメージが画面イメージから消え、「非表示」ボタンが「表示」ボタンに変わります。

「OK」ボタン:クリックすると、項目設定を反映してメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン:クリックすると、項目設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

「適用」ボタン:クリックすると、現在の項目設定を反映します。その後「キャンセル」ボタンをクリックしても、「適用」ボタンをクリックした時点までの項目設定は反映されています。

6.3.1 「画面更新」項目の設定

「項目名」リストボックスで「画面更新」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

画面イメージ

1 X

1 【入荷】 rrrrrr/rrrrrr
担: rrrrrr エリ7: rrrr
商品:
Y 数量:

入力済みのデータ表示

表示データ	X(1~20)	Y(1~5)
担当者コード入力	5	2
エリアNo入力	18	2
表示しない		
表示しない		
表示しない		

「画面イメージ」: 画面の表示更新内容を設定します。直接手入力操作で設定を行います。また、「表示データ」で選択された項目データイメージを表示します。

「入力済みのデータ表示」: 既に入力された項目データの表示の設定を行います。

「表示データ」コンボボックス: 表示するデータ項目を設定します。「単純入力」、「チェック付入力」の項目と、「マスタ検索」で「検索結果データを表示する」設定でチェックありになっている項目しか表示されず、選択できません。また、選択されている項目より上の項目しか選択できません。

「X、Y」エディットボックス: 表示データの表示先頭位置を設定します。

6.3.2 「単純入力」項目の設定

「項目名」リストボックスで「単純入力」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

画面イメージ

1 X

1 【入荷】 nnnn/nnnn
担 : nnnnn エリア : nnn
商品 : nnnnnnnnnnnnnnnnn
Y 数量 :

入力形式

位置 X(1~20) (X) 7 Y(1~5) (Y) 3

桁数(1~20) (L) 13 型(T) 数字

入力方法

☒ キー(K) ☒ バーコード(R) バーコード設定(S)

「画面イメージ」: 選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「入力形式」: データの入力形式を設定します。

「位置(X、Y)」エディットボックス: データの入力開始位置を設定します。カーソルは開始位置から始まり、データを1字入力するたびに右に移動します。

「桁数」エディットボックス: データの入力桁数を設定します。

「型」コンボボックス: データの型を設定します。文字／数字の中から選択します。

「入力方法」: データの入力方法を決定します。許可する入力方法のチェックボックスにチェックをつけます。必ず1つは選択してください。

「バーコード設定」ボタン: クリックすると、バーコード設定画面が表示されます。

6.3.3 「チェック付入力」項目の設定

「項目名」リストボックスで「チェック付入力」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

画面イメージ

1 X

1 【入荷】 nnnn/nnnn
 担 : nnnnnn エリア : nnn
 商品 : nnnnnnnnnnnnnnnnn
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 Y 数量 : nnn

入力形式

位置 X(1~20) (X) 7 Y(1~5) (Y) 5

桁数(1~20) (L) 3

入力条件

比較値(R) 1 ~ 200

「画面イメージ」: 選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「入力形式」: データの入力形式を設定します。

「位置(X、Y)」エディットボックス: データの入力開始位置を設定します。カーソルは開始位置から始まり、データを1字入力するたびに右に移動します。

「桁数」エディットボックス: データの入力桁数を設定します。

「入力条件」: データの入力条件を決定します。ターミナルで入力されたデータが入力条件に当てはまらない場合は、エラーが表示され再入力待ち状態になります。

「比較値」エディットボックス: データの入力範囲条件を設定します。入力可能とするデータの最小値と最大値を設定します。

6.3.4 「マスタ検索」項目の設定

「項目名」リストボックスで「マスタ検索」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

「画面イメージ」: マスタ検索エラー時のエラーメッセージ画面の表示内容を設定します。直接手入力操作で設定を行います。

「検索キー名」スタティックボックス: マスタ編集画面で設定したキー名を表示します。第1キーから順に最大5キー表示します。

「検索キー項目」コンボボックス: 検索キーと対応する入力項目を設定します。「単純入力」の項目しか表示されず、選択できません。第1キー列と対応する項目の場合は、必ずどれかの入力項目を選択します。第1キー列以外の場合は「指定しない」項目を選択することができます。

「検索エラー時もデータ入力 OK とする」チェックボックス: マスタ検索した結果がエラーになった場合に、OK とするかどうかを設定します。チェックをつけた場合は OK とします。

「エラー時の戻り先」: 「検索エラー時もデータ入力 OK とする」チェックボックスでチェックをつけていない設定でマスタ検索結果がエラーになった場合や、チェックをつけている設定でマスタ検索結果エラーのときに「CLR」キーを入力した場合に、どの入力項目に戻るかを設定します。「単純入力」の項目しか表示されず、選択できません。

「**検索結果表示**」: 検索結果を表示するかどうか、また表示する場合の表示データの設定を行います。

「検索結果データを表示する」にチェックがついている場合は、検索結果を表示します。マスタ編集画面でキーにしている列を 1 つも設定していない場合は、検索結果を表示する設定にすることはできません。

「**位置(X,Y)**」エディットボックス: 検索表示データの表示開始位置を設定します。

「**桁数**」エディットボックス: 検索表示データの表示桁数を設定します。

「**表示列**」コンボボックス: 表示するデータ列を設定します。マスタ編集画面で設定したフィールド名を表示します。キー指定されていない列のフィールド名のみ表示されます。

6.3.5 「ジャンプ」項目の設定

「項目名」リストボックスで「ジャンプ」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

画面イメージ

1 X

1 【入荷】 nnnn/nnnn
担 : nnnnn エリア : nnn
商品 :
Y 数量 :

ジャンプ先設定

1を入力した場合(E) 商品コード入力

2を入力した場合(S) 数量入力

3を入力した場合(T) ジャンプしない

「画面イメージ」: 選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「ジャンプ先設定」: 入力されたキーと対応するジャンプ先の項目名をコンボボックスより選択します。「画面更新」、「単純入力」、「チェック付入力」、「マスタ検索」の項目のみ選択できます。また、選択されている項目より下の項目しか選択できません。上の項目にはジャンプできません。

ターミナルでは対応するキー以外が入力された場合、入力は無視されます。

6.3.6 末尾項目の設定

「項目名」リストボックスで末尾の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

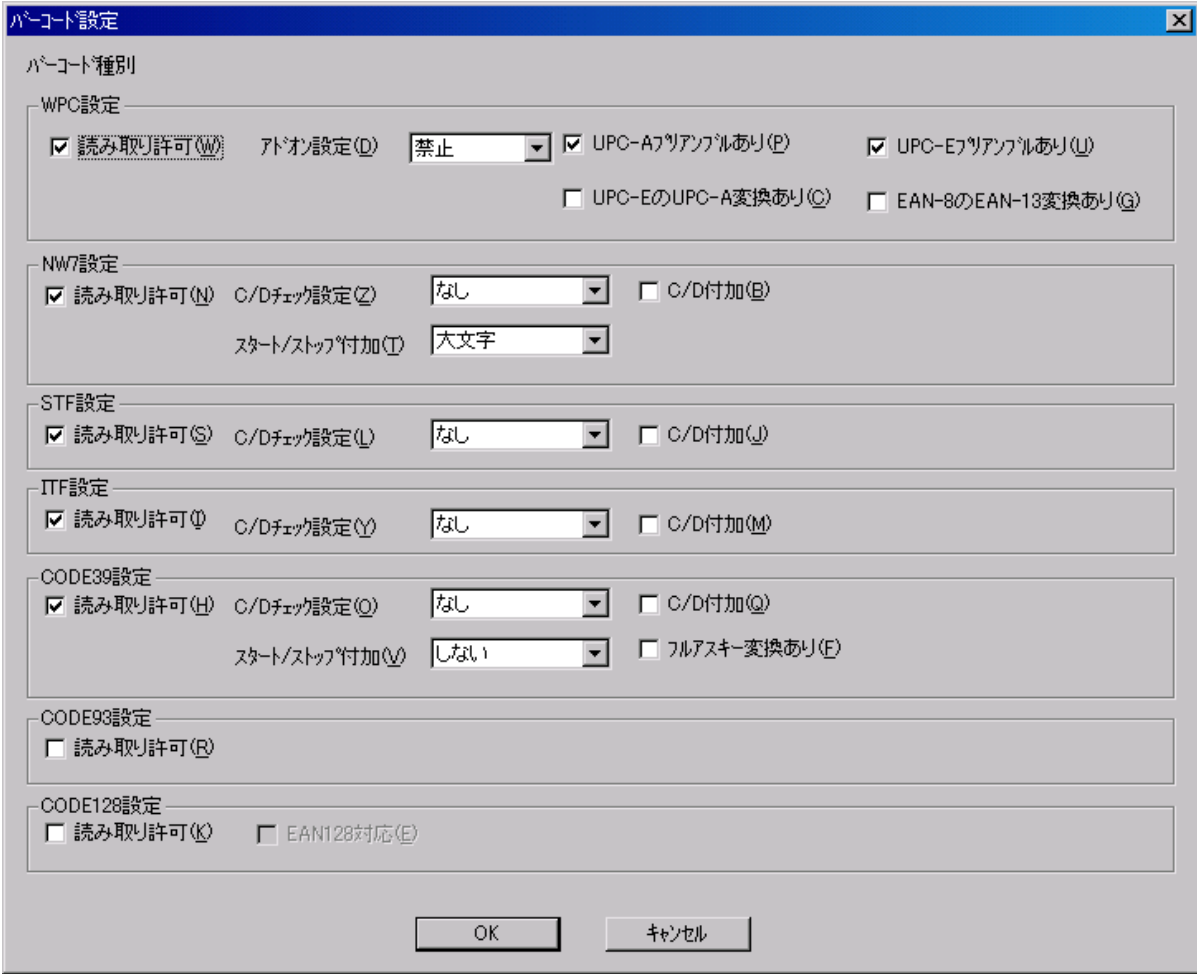
The screenshot shows a dialog box with two main sections. The top section, titled '画面イメージ' (Screen Image), contains a terminal window with the following text: '1 確認画面 nnnn/nnnn', '担 : nnnnnn エリア : nnn', '商品 : nnnnnnnnnnnnnnnnn', 'XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX', and 'Y 数量 : nnn'. The bottom section, titled 'ジャンプ先設定' (Jump Destination Setting), contains a label 'ジャンプ先(L)' and a dropdown menu currently showing '商品コード入力' (Product Code Input).

「画面イメージ」: 選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「ジャンプ先」: 末尾まで操作が進んだときのジャンプ先の項目名をコンボボックスより選択します。「画面更新」、「単純入力」、「チェック付入力」、「マス検索」の項目のみ選択できます。

6.4 バーコード設定画面

項目設定画面で「バーコード設定」ボタンをクリックすると、以下のバーコード設定画面が表示されます。



The dialog box is titled "バーコード設定" (Barcode Settings). It contains several sections for configuring different barcode types:

- バーコード種別** (Barcode Type): A section header.
- WPC設定** (WPC Settings):
 - ☒ 読み取り許可(W) (Allow Reading)
 - アドオン設定(D) (Addon Setting): A dropdown menu set to "禁止" (Prohibit).
 - ☒ UPC-A7リアンフルあり(P) (UPC-A7 Full)
 - ☒ UPC-E7リアンフルあり(U) (UPC-E7 Full)
 - ☐ UPC-EのUPC-A変換あり(C) (UPC-E to UPC-A Conversion)
 - ☐ EAN-8のEAN-13変換あり(G) (EAN-8 to EAN-13 Conversion)
- NW7設定** (NW7 Settings):
 - ☒ 読み取り許可(N) (Allow Reading)
 - C/Dチェック設定(Z) (C/D Check Setting): A dropdown menu set to "なし" (None).
 - ☐ C/D付加(B) (C/D Addition)
 - スタート/ストップ付加(T) (Start/Stop Addition): A dropdown menu set to "大文字" (Uppercase).
- STF設定** (STF Settings):
 - ☒ 読み取り許可(S) (Allow Reading)
 - C/Dチェック設定(L) (C/D Check Setting): A dropdown menu set to "なし" (None).
 - ☐ C/D付加(J) (C/D Addition)
- ITF設定** (ITF Settings):
 - ☒ 読み取り許可(I) (Allow Reading)
 - C/Dチェック設定(Y) (C/D Check Setting): A dropdown menu set to "なし" (None).
 - ☐ C/D付加(M) (C/D Addition)
- CODE39設定** (CODE39 Settings):
 - ☒ 読み取り許可(H) (Allow Reading)
 - C/Dチェック設定(O) (C/D Check Setting): A dropdown menu set to "なし" (None).
 - ☐ C/D付加(Q) (C/D Addition)
 - スタート/ストップ付加(V) (Start/Stop Addition): A dropdown menu set to "しない" (No).
 - ☐ フルアスキー変換あり(F) (Full ASCII Conversion)
- CODE93設定** (CODE93 Settings):
 - ☐ 読み取り許可(R) (Allow Reading)
- CODE128設定** (CODE128 Settings):
 - ☐ 読み取り許可(K) (Allow Reading)
 - ☐ EAN128対応(E) (EAN128 Support)

At the bottom, there are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

バーコード設定画面では、各バーコードの読取り設定を行います。

「読取許可」チェックボタン: 各バーコードの読取許可設定を行います。チェックがついている場合は、読取を許可します。

「アドオン設定」コンボボックス: アドオンコードの読取許可設定を行います。

「UPC-A(E)リアンフルあり」チェックボックス: UPC-A(E)に0を付加するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は0を付加します。

「UPC-E(EAN-8)のUPC-A(EAN-13)変換あり」チェックボックス: UPC-E(EAN-8)を読み取ったときにUPC-A(EAN-13)の形式に変換するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、変換を行います。

「C/Dチェック設定」コンボボックス: C/Dチェックを行うかどうかの設定を行います。

「C/D 付加」チェックボックス:C/D を付加するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は C/D を付加します。

「スタート/ストップ付加」コンボボックス:スタート/ストップコードを付加するかどうかの設定を行います。

「フルアスキー変換あり」チェックボックス:フルアスキー変換を行うかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、変換を行います。

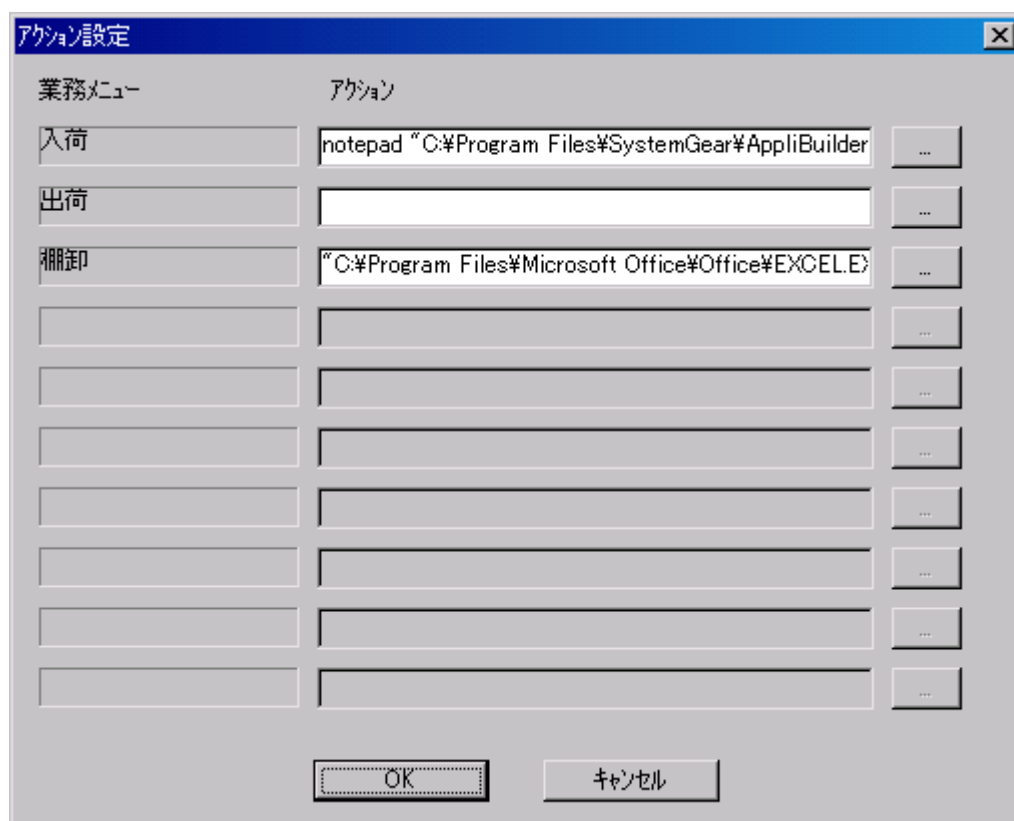
「EAN128 対応」チェックボックス:CODE128 でスタートコードの次に FUNC1 コードがある場合に EAN128 として認識するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、EAN128 を認識します。

「OK」ボタン:クリックすると、バーコード設定を反映して項目設定画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン:クリックすると、バーコード設定を反映せずに項目設定画面に戻ります。

6.5 アクション設定画面

メイン画面で「設定(C)」メニューの「アクション設定(C)」を選択すると、以下のアクション設定画面が表示されます。



アクション設定画面では、ターミナルデータを受信した後に実行するアクションを設定します。

「業務メニュー」:各業務メニュー名を表示します。

「アクション」エディットボックス:各業務メニューの入力データをターミナルから受信したときに、実行するアクションを設定します。

コマンドライン形式で設定します。実行プログラム名と各オプションの間にはスペースを入れて指定してください。実行プログラム名などにスペースが存在する場合は“(ダブルクォーテーション)”で括ってください。

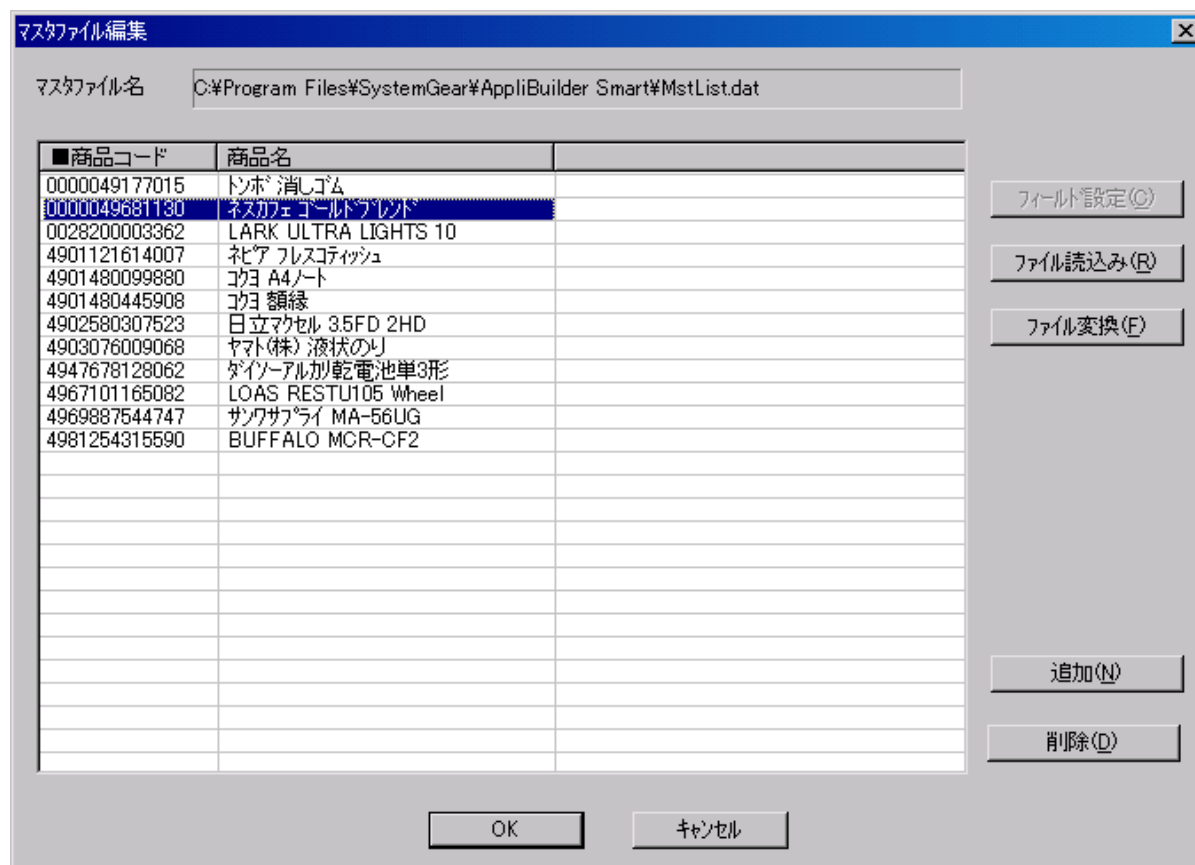
「...」ボタン:クリックすると、実行プログラム選択画面が表示されます。実行プログラムを選択すると、「アクション」エディットボックスに反映されて入力されます。

「OK」ボタン:クリックすると、アクション設定を反映してメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン:クリックすると、アクション設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

6.6 マスタファイル編集画面

メイン画面で「マスタ管理(M)」メニューの「マスタファイル編集(E)」を選択すると、以下のマスタファイル編集画面が表示されます。



マスタファイル編集画面では、マスタデータを編集します。

「**マスタファイル名**」:マスタファイル名が指定されていない場合は空白になります。「ファイル読み込み」ボタンをクリックして、ファイルを読み込むとそのファイル名が表示されます。

「マスタデータ」リストボックス: マスタ登録データが表示されます。第 1 キー列から第 5 キー列の順で昇順にソートされて表示されます。ヘッダには各フィールド名が表示されます。フィールド名の先頭に ■ が付いている場合はそのフィールドがキー列であることを示します。また、一番左のフィールドは第 1 キー列です。左から列番号順にフィールドが表示されます。キー列は左詰めになります。

「フィールド設定」ボタン: クリックすると、フィールド設定画面が表示されます。

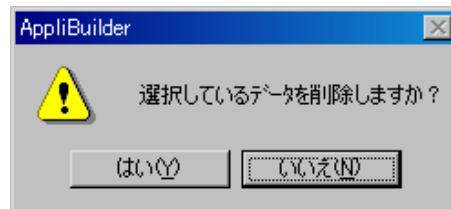
マスタデータが既に登録されている場合は、フィールド設定を行うことはできません。

「**ファイル読み込み**」ボタン: クリックすると、ファイル選択画面が表示されますので、読み込むマスタファイルを選択します。「開く」ボタンをクリックすると、マスタファイルからデータが読み込まれます。読み込んだデータが「マスタデータ」リストボックスに上書きされて表示されます。

「ファイル変換」ボタン: クリックすると、マスタファイル変換画面が表示されます。

「追加」ボタン: クリックすると、「マスタデータ」リストボックスに新規データが追加されます。

「削除」ボタン: クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択しているデータを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

「OK」ボタン: クリックすると、保存ファイル選択画面が表示されますので、保存するファイル名を選択します。デフォルトで読み込みマスタで指定したファイルが選択されます。「保存」ボタンをクリックすると、マスタデータをマスタファイルに保存してメイン画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン: クリックすると、マスタデータをマスタファイルに保存せずにメイン画面に戻ります。

6.7 フィールド設定画面

マスタファイル編集画面でマスタデータが1つも登録されていない状態で、「フィールド設定」ボタンをクリックすると、以下のフィールド設定画面が表示されます。

フィールド名	データ長
☒ 商品コード	13
☐ 商品名	20

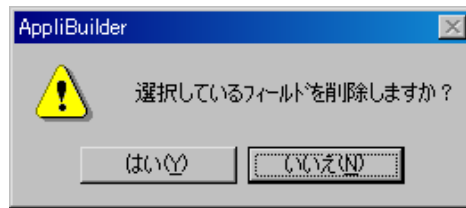
Buttons: 追加(N), 削除(D), 上へ(U), 下へ(B), OK, キャンセル

フィールド設定画面では、マスタデータのフィールドのフォーマットを設定します。

「フィールド設定」リストボックス: 各フィールドの設定データが表示されます。フィールド名とデータ長、キー列かどうかを設定します。チェックボタンにチェックをつけると、そのフィールドがキー列であることを示します。キー列は最大 5 項目まで指定できます。チェックがついているフィールドは上に詰められて表示されます。一番上のフィールドは第 1 キー列です。

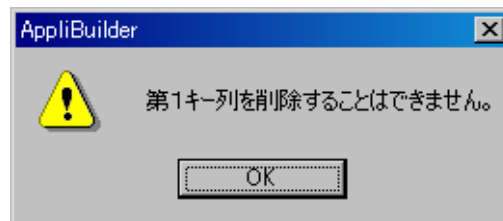
「追加」ボタン: クリックすると、フィールドデータを追加します。フィールドデータの編集は直接「フィールド設定」リストボックスに入力して行います。最大16項目までフィールドデータを追加できます。

「削除」ボタン: クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択されているフィールドデータを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

第1キー列は削除できません。第1キー列を削除しようとする以下のエラーメッセージが表示されます。



「上へ」ボタン: クリックすると、選択されているフィールドを1つ上に移動します。

「下へ」ボタン: クリックすると、選択されているフィールドを1つ下に移動します。

「OK」ボタン: クリックすると、マスタフィールド設定をメモリデータに反映してマスタ編集画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン: クリックすると、マスタフィールド設定をメモリデータに反映せずにマスタ編集画面に戻ります。

6.8 ファイル変換画面

マスタファイル編集画面で「ファイル変換」ボタンをクリックすると、以下のファイル変換画面が表示されます。

ファイル変換画面では、マスタデータの変換設定を行い、設定通りにデータを変換して読み込みます。

「読み込みファイル名」エディットボックス: 読み込みファイル名を設定します。

「...」ボタン: クリックすると、ファイル選択画面が表示されます。ファイルを選択すると、「読み込みファイル名」エディットボックスに選択したファイル名が表示されます。

「読み込みファイルのフォーマット」ラジオボタン: 読み込みファイルのフォーマットを設定します。CSV が選択されている場合は CSV 形式に、固定長が選択されている場合は固定長形式に合わせて読み込みを行います。

「フィールド名」スタティックボックス: フィールド名が表示されます。

「列番号」エディットボックス: 「読み込みファイルのフォーマット」ラジオボタンが CSV 設定になっているときのみ有効状態になります。何番目の項目を読み込むかを設定します。項目は左から順に 1 番目、2 番目…と数えます。

「読み込み位置」エディットボックス: 「読み込みファイルのフォーマット」ラジオボタンが固定長設定になっているときのみ有効状態になります。何桁目から読み込むかを設定します。

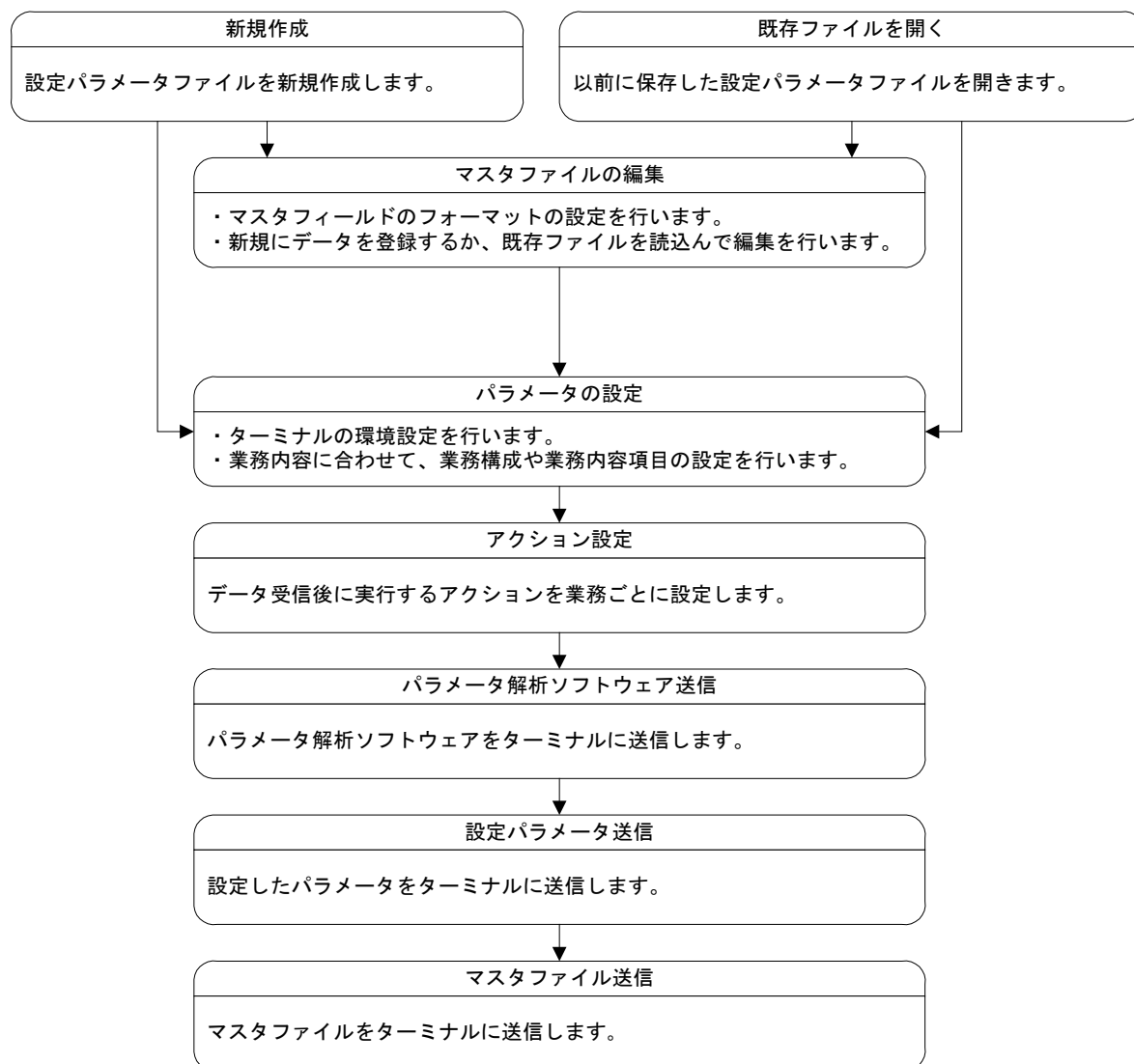
「読み桁数」エディットボックス:「読みファイルのフォーマット」ラジオボタンが固定長設定になっているときにのみ有効状態になります。「読み位置」エディットボックスで設定した桁数から何桁分読み込むかを設定します。

「変換」ボタン:クリックすると、「読みファイル名」エディットボックスで設定したファイルを設定通りに変換して読みます。読込んだデータはマスタ編集画面の「マスタデータ」リストボックスに追加されて表示されます。

「キャンセル」ボタン:クリックすると、ファイルを読み込まずにマスタ編集画面に戻ります。

7 操作方法

7.1 ターミナルアプリケーション開発の流れ



7.2 ファイルの新規作成

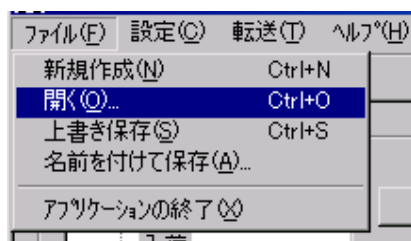
メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「新規作成(N)」を選択します。



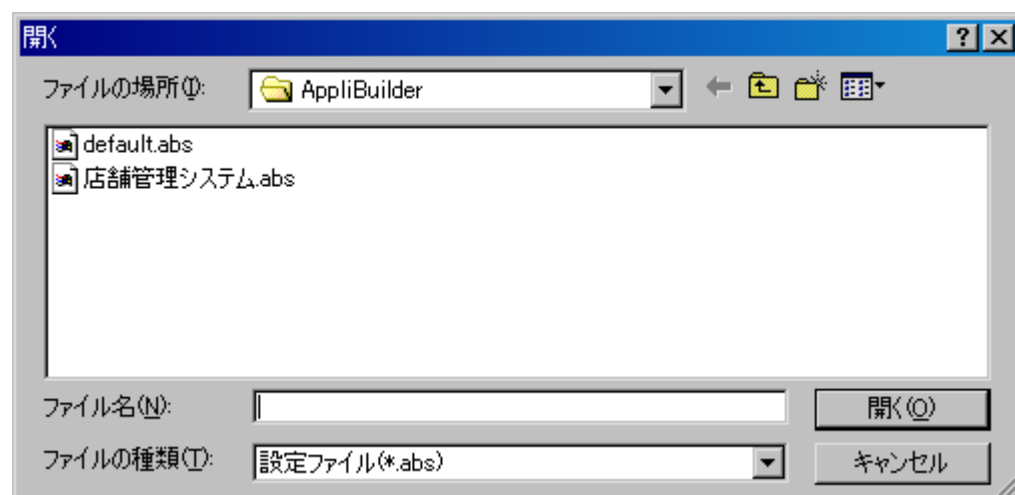
デフォルトの設定パラメータが表示されます。本アプリケーション起動直後は、ファイルの新規作成を行ったときと同じ状態になります。

7.3 既存ファイルを開く

メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「開く(O)」を選択します。



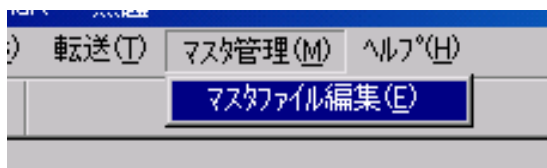
以下のようにファイル選択ダイアログ画面が表示されますので、ファイルを選択して「開く(O)」ボタンをクリックします。



選択した設定パラメータファイルの設定パラメータが表示されます。

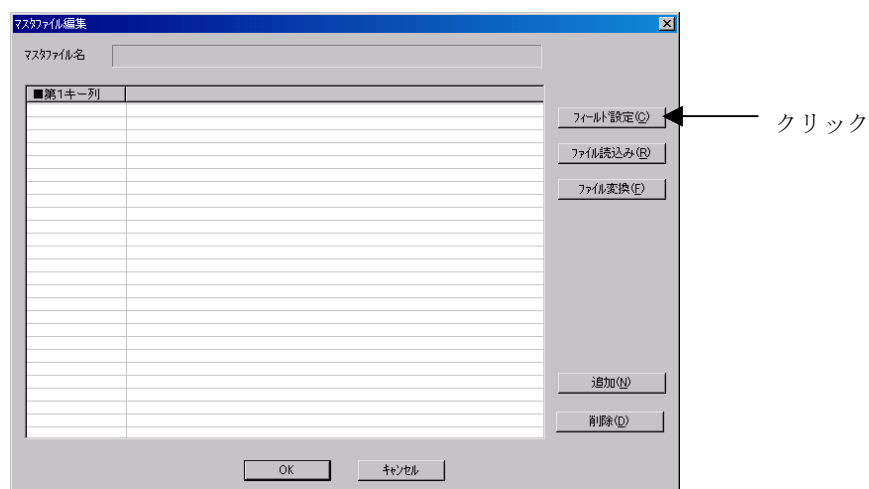
7.4 マスタファイルの編集

メイン画面で「マスタ管理(M)」メニューの「マスタファイル編集(E)」を選択します。

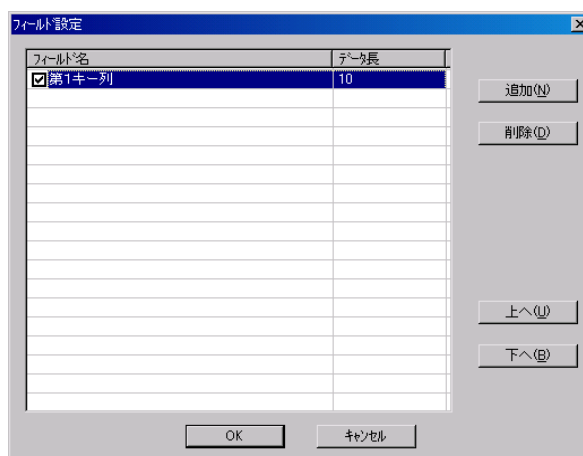


新規の場合、以下のように初期状態でマスタファイル編集画面が表示されます。

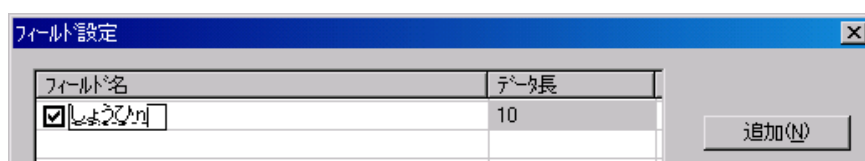
マスタデータのフィールドフォーマットを設定するために、「フィールド設定(C)」ボタンをクリックし、フィールド設定画面を表示します。



以下のようにフィールド設定画面が初期状態で表示されます。



まず第1キー列を設定します。第1キー列はマスタ検索項目の全てでキーとして指定されます。設定したいフィールドをダブルクリックすると編集可能となりますので、手入力して「フィールド名」や「データ長」を設定します。



例として、『商品コード』を第 1 キー列として設定します。

フィルタ設定

フィルタ名	データ長
☒ 商品コード	13

追加(N)

次に、『商品コード』から検索されるフィールドとして『商品名』を設定します。

「追加(N)」ボタンをクリックすると新規フィールドデータが追加されますので、第 1 キー列と同じように手入力で設定します。

フィールド名	データ長
☒ 商品コード	13
☐ 新フィールド	1

追加(N)

『商品名』はキー列にしないので、チェックボックスにチェックを入れません。

フィールド名	データ長
☒ 商品コード	13
☐ 商品名	20

「OK」ボタンをクリックすると、マスタファイル編集画面に設定した内容が反映されて表示されます。

[illegible]

7.4.1 新規にデータを登録する場合

「追加(N)」ボタンをクリックしてデータを追加し、フィールド設定画面と同じように各列を手入力で設定します。

7.4.2 既存のマスタファイルをターミナル用に変換・編集する場合

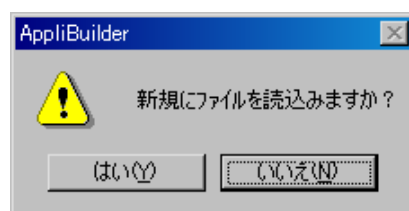
「ファイル変換(F)」ボタンをクリックし、ファイル変換画面で読み込みファイル名と変換設定を行い、「変換」ボタンをクリックします。

変換設定通りに既存マスタファイルのデータが読み込まれます。

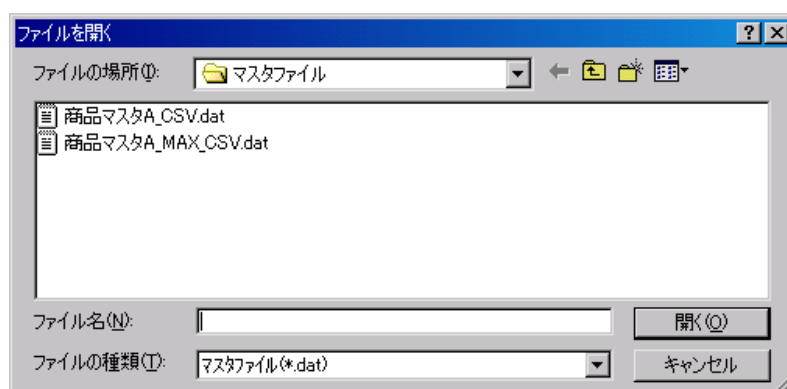
商品コード	商品名
0000049177015	トホホ 消しゴム
0000049681130	ネスカフェ ゴールドブレンド
0028200003362	LARK ULTRA LIGHTS 10
4901121614007	社ア フレスコフィッシュ
4901480099880	コヨ A4 ノート
4901480445908	コヨ 額縁
4902580307523	日立マクセル 3.5FD 2HD
49030760009068	ヤマト(株) 液状のり
4947678128062	ダイソーアルカリ乾電池単3形
4967101165082	LOAS RESTU105 Wheel
4969887544747	サンワサプライ MA-56UG
4981254315590	BUFFALO MCR-CF2

7.4.3 ターミナル用に編集されているマスタファイルを使用する場合

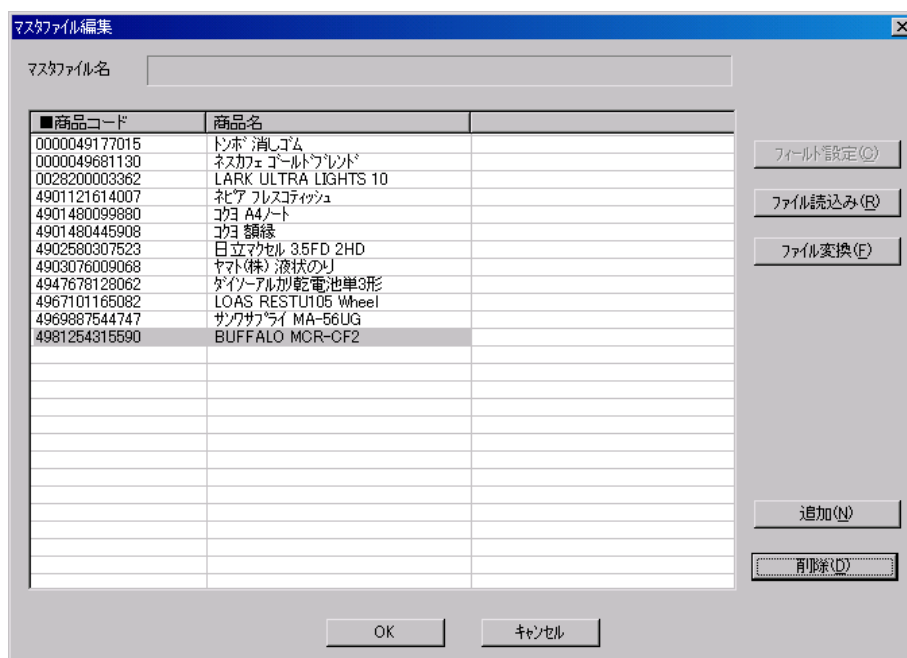
「ファイル読み込み(R)」ボタンをクリックすると、以下のように確認メッセージが表示されますので「はい(Y)」ボタンをクリックします。



以下のようにファイル選択ダイアログ画面が表示されますので、ファイルを選択して「開く(O)」ボタンをクリックします。



マスタファイルのデータが読込まれます。



各マスタ編集設定操作の詳細は、「6.6 マスタファイル編集画面」の各画面説明を参照してください。

7.5 パラメータの設定

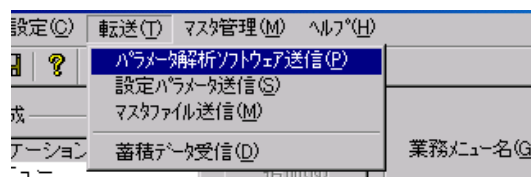
メイン画面や項目設定画面などで、各パラメータの設定を行います。
詳細は、「6. 画面構成」の各画面の説明を参照してください。

7.6 アクション設定

アクション設定画面で業務メニューごとにターミナルデータ受信後のアクションを設定します。
詳細は、「6.5 アクション設定画面」を参照してください。

7.7 パラメータ解析ソフトウェア送信

メイン画面で「転送(T)」メニューの「パラメータ解析ソフトウェア送信(P)」を選択します。



以下のようなパラメータ解析ソフトウェア送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。

 A screenshot of the 'パラメータ解析ソフトウェア送信' (Parameter Analysis Software Transfer) dialog box. It contains the following fields and options:

- COMポート(C): A dropdown menu showing 'COM1'.
- 通信速度(B): A dropdown menu showing '115200bps'.
- ホーリングタイムアウト値(100~5000ms) (P): A text input field showing '500'.
- ファイル転送時のフザー鳴動設定 (File transfer buzzer sound setting): A group box containing three radio buttons:
 - ☒ フザー鳴動なし(N) (No buzzer sound)
 - ☐ 1ファイル転送毎にフザー鳴動する(E) (Buzzer sound every 1 file transfer)
 - ☐ 全ファイル転送終了時にフザー鳴動する(E) (Buzzer sound at the end of all file transfers)
- ターミナルID (Terminal ID): A text input field showing '1-3'. Below it is a note:

ターミナルIDの入力形式:
IDは1~127の範囲で入力してください。
複数のIDを指定する場合は[,]で区切ってください。
連続したIDを指定する場合は[-]で範囲を指定してください。
例. 「1,3,5,7」「1,3-5,7」
- 受信データ保存フォルダ(O): A text input field with a browse button (...).
- A large button labeled 'パラメータ解析ソフトウェアを送信します。' (Send parameter analysis software).
- At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

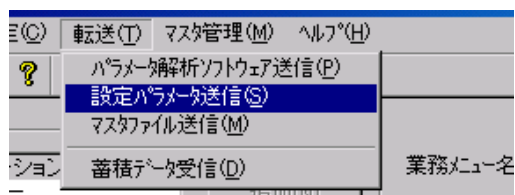
「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

※ ターミナル側の操作に関しては、ターミナルのマニュアル(MET-1000 操作説明書)内に明記されている「パソコンとファイル転送を行う」を参照してください。

転送処理が終了した時点で、ターミナルを再起動してください。

7.8 設定パラメータ送信

メイン画面で「転送(T)」メニューの「設定パラメータ送信(S)」を選択します。



以下のような設定パラメータ送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。

設定パラメータ送信

COMポート(C) ホールリンクタイムアウト値(100～5000ms) (P)

通信速度(B)

ファイル転送時のフザー鳴動設定

- ☒ フザー鳴動なし(N)
- ☐ 1ファイル転送毎にフザー鳴動する(E)
- ☐ 全ファイル転送終了時にフザー鳴動する(E)

ターミナルID

ターミナルIDの入力形式:
IDは1～127の範囲で入力してください。
複数のIDを指定する場合は[,]で区切ってください。
連続したIDを指定する場合は[-]で範囲を指定してください。
例. 「1,3,5,7」「1,3-5,7」

受信データ保存フォルダ(Q) ...

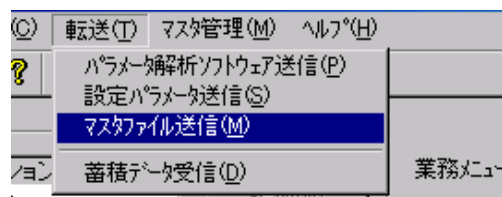
設定パラメータファイルを送信します。

「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

※ ターミナル側の操作に関しては、「8.4.7 設定パラメータ受信」を参照してください。

7.9 マスタファイル送信

メイン画面で「転送(T)」メニューの「マスタファイル送信(M)」を選択します。



以下のようなマスタファイル送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。

マスタファイル送信

COMポート(C) ホールリンクタイムアウト値(100～5000ms) (P)

通信速度(B)

ファイル転送時のブザー鳴動設定

- ☒ ブザー鳴動なし(N)
- ☐ 1ファイル転送毎にブザー鳴動する(E)
- ☐ 全ファイル転送終了時にブザー鳴動する(E)

ターミナルID

ターミナルIDの入力形式:
IDは1～127の範囲で入力してください。
複数のIDを指定する場合は[,]で区切ってください。
連続したIDを指定する場合は[-]で範囲を指定してください。
例. 「1,3,5,7」「1,3-5,7」

受信データ保存フォルダ(Q) ...

マスタファイルを送信します。

「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

※ ターミナル側の操作に関しては、「8.4.8 マスタファイル受信」を参照してください。

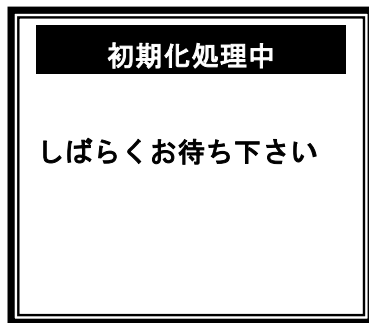
8 ターミナルの設定と動作

ターミナルの設定と動作について説明します。

以下の操作に関しては、設定パラメータファイル内のフォントサイズが12ドットの場合を例としています。

初めてご使用頂く場合、ターミナルにパラメータ解析ソフトウェアをインストールする必要があります。

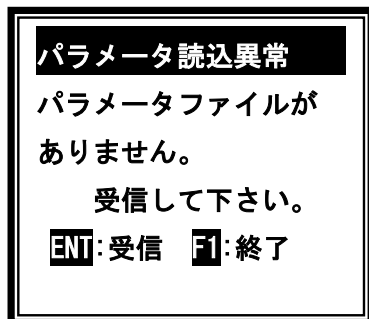
8.1 ターミナル起動



ターミナルの[PW]を押下することによりパラメータ解析ソフトウェアが起動します。

※ 初期化処理を行います。終了次第自動的に画面が切替ります。

8.1.1 初期起動



設定パラメータファイルがターミナルに存在しない場合、以下のメッセージを表示し設定パラメータの受信を促します。

- ※ 設定パラメータファイルが壊れている場合にも、同じメッセージが表示されます。
- ※ 設定パラメータファイルが正常な場合、設定パラメータ論理チェックへ移行します。

■ 受信(ENT押下)

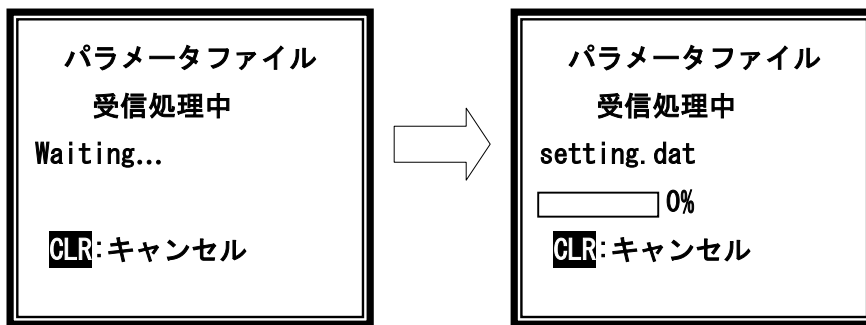
設定パラメータの受信を行います。

■ 終了(F1押下)

パラメータ解析ソフトウェアを停止し、電源を切断します。

8.1.2 設定パラメータ受信

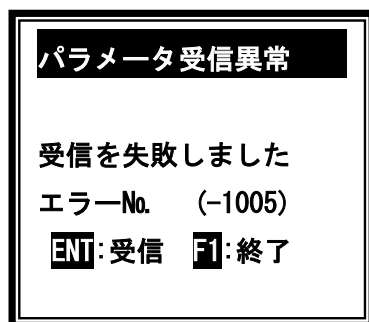
本アプリケーションで作成した設定パラメータファイルを受信します。



- ※ 設定パラメータ受信の通信速度は、ターミナルで設定されている通信速度となります。
- ※ 設定パラメータ受信が正常終了した場合、ターミナル起動へ移行します。
- ※ 設定パラメータ受信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終了した場合、パラメータ受信異常へ移行します。

8.1.3 パラメータ受信異常

設定パラメータファイル受信を異常終了した場合、以下の画面を表示します。



- ※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。(エラーNo.は、「8.6.2 エラー詳細」を参照してください)
- ※ 設定パラメータファイルが存在し正常な場合、設定パラメータ論理チェックへ移行します。

■ 受信 (ENT押下)

設定パラメータの受信へ移行します。

■ 終了 (F1押下)

パラメータ解析ソフトウェアを停止し、電源を切断します。

8.1.4 設定パラメータ論理チェック

設定パラメータファイル情報に設定されている情報の論理チェックを行います。

(1) バージョンチェック

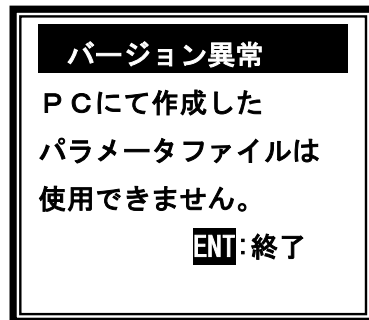
ターミナルソフトウェアバージョンとPCで設定された設定パラメータバージョンが一致するかの確認を行います。

① 正常の場合

設定値チェックへ移行します。

② 異常の場合

バージョン異常画面を表示します。



■ 終了 (ENT押下)

パラメータファイルを削除後、ターミナルの電源を切断します。

(2) 設定値チェック

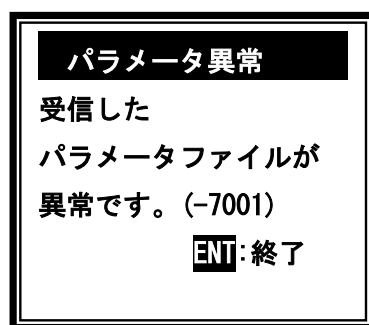
ターミナルソフトウェアバージョンとPCで設定された値が正常値であるかの確認を行います。

① 正常の場合

起動画面へ移行します。

② 異常の場合

バージョン異常画面を表示します。



※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。(エラーNo.は、「8.6.2 エラー詳細」を参照してください)

■ 終了 (ENT押下)

パラメータファイルを削除後、ターミナルの電源を切断します。

8.2 起動画面

設定パラメータで設定されている起動画面情報を2秒間表示し、自動的にメニュー画面へ移行します。



- ※ 設定パラメータファイル内の起動画面設定を表示有りにしている場合に表示します。
- ※ 表示内容は、設定パラメータファイル内容を表示します。

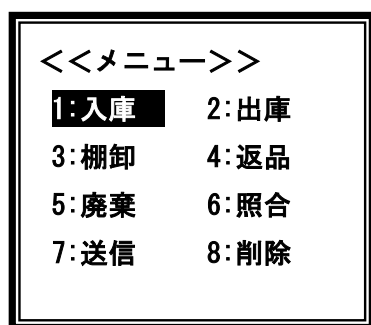
8.3 メニュー画面

8.3.1 メニュー画面表示

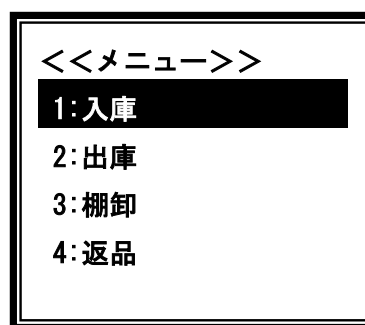
メニュー画面が立ちあがります。

設定パラメータファイル内の設定内容をもとに表示します。

(横並表示)



(縦並表示)



- ※ 選択されているところを反転表示します。
- ※ 送信・削除は、設定されたメニュー項目の最後に追加されます。
- ※ [S1]/[S2]キーにて選択項目の移動が可能です。
- ※ 上記画面の説明は、「入庫」・「出庫」・「棚卸」・「返品」・「廃棄」・「照合」が設定されている場合です。

8.3.2 メニュー選択

メニュー画面からキー操作により、各機能への移行が可能です。

選択可能な補足機能は次の通りです。(8.4 補足機能を参照してください)

- ターミナルID設定
- システム日付・時間設定
- 各バージョン表示
- 通信速度設定
- ファイルシステム表示
- コントラスト調整
- 設定パラメータファイル受信
- マスターファイル受信
- 電源切断

※ 選択されている項目のところで、[ENT]キー押下により選択が可能です。

※ 直接、項目No.を入力することにより、選択可能です。

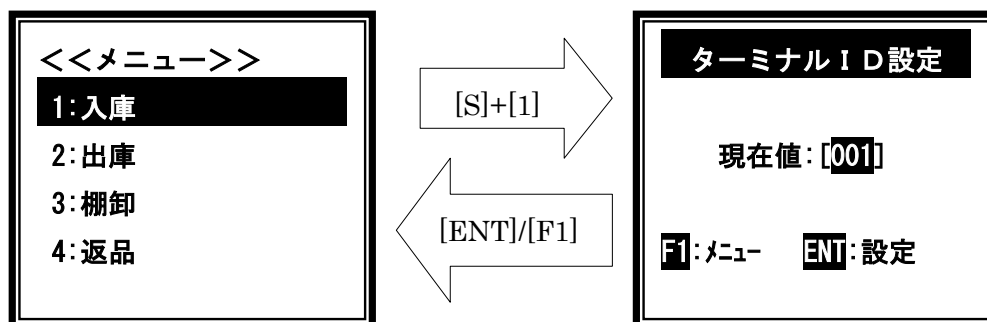
※ 直接入力する場合には、[1]～[9]/[0]/[.]/[F4]となります。

8.4 補足機能

8.4.1 ターミナルID設定

メニュー画面で[S]+[1]を押下することにより、ターミナルID設定画面へ移行します。

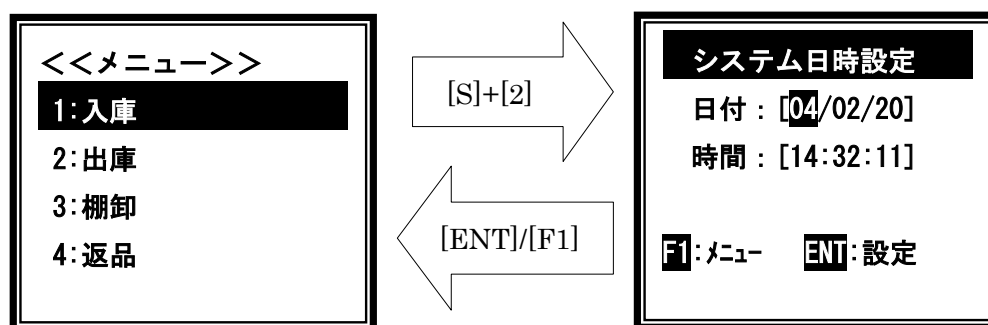
ターミナルIDは、ターミナルを識別するために割り当てる番号です。



- ※ [S1]・[S2]でターミナルIDの変更が可能です。
- ※ 確定は[ENT]にて反映されます。
- ※ [F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

8.4.2 システム日付・時間設定

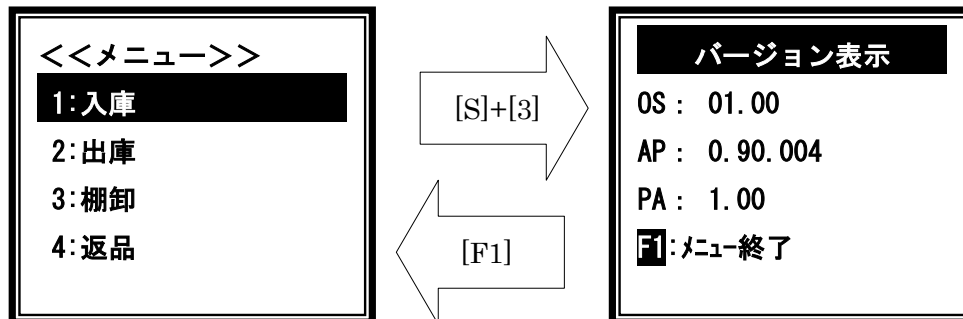
メニュー画面で[S]+[2]を押下することにより、ターミナル内のシステム日付・時間設定画面へ移行します。



- ※ [F2]・[F3]で変更する項目が選択可能です。
- ※ [S1]・[S2]でターミナル項目の変更が可能です。
- ※ 確定は[ENT]にて反映されます。
- ※ [F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

8.4.3 各バージョン表示

メニュー画面で[S]+[3]を押下することにより、各バージョン表示画面へ移行します。

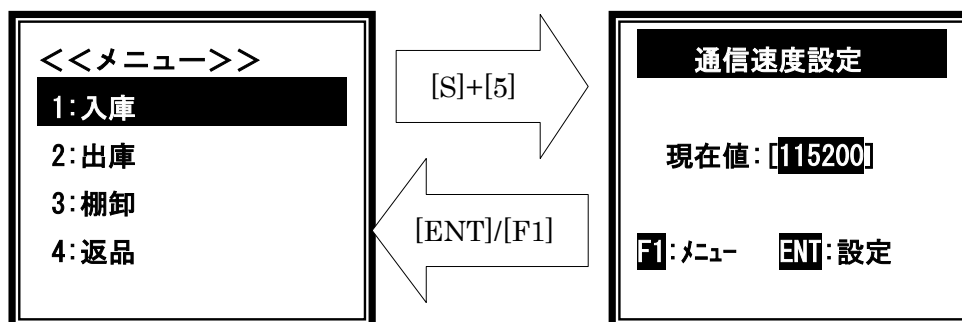


- ※ [F1]でメニュー画面へ移行します。
- ※ OS は OS バージョン、AP はアプリケーションバージョン、PA は設定パラメータバージョンです。

8.4.4 通信速度設定

メニュー画面で[S]+[5]を押下することにより、ターミナルID設定画面へ移行します。

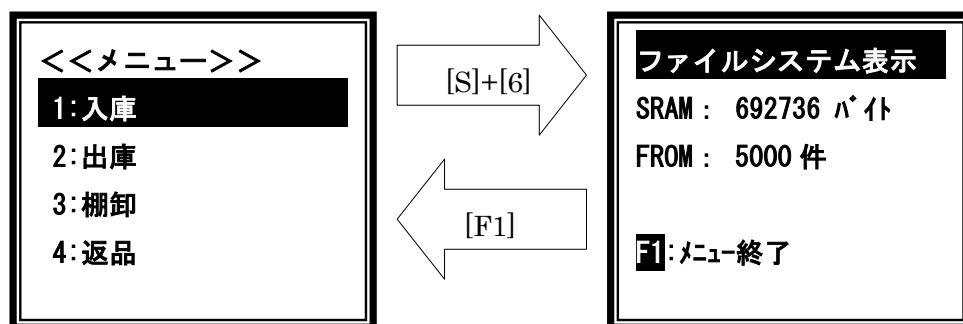
ターミナルIDは、ターミナルを識別するために割り当てる番号です。



- ※ [S1]・[S2]で通信速度の変更が可能です。
- ※ 確定は[ENT]にて反映されます。
- ※ [F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

8.4.5 ファイルシステム表示

メニュー画面で[S]+[6]を押下することにより、ファイルシステム表示画面へ移行します。

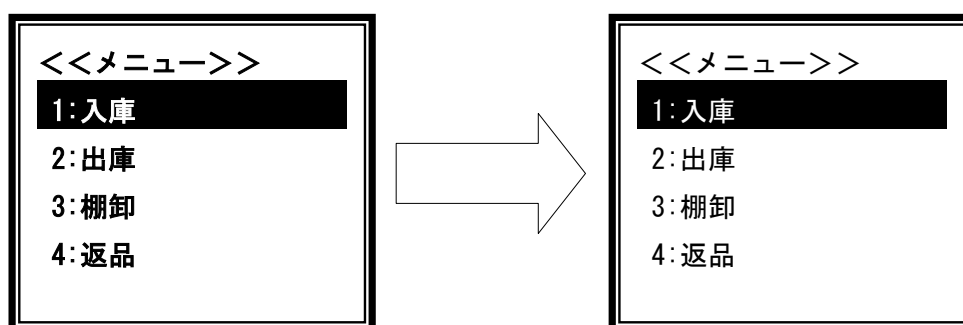


- ※ [F1]でメニュー画面へ移行します。
- ※ SRAM は、残り入力可能サイズです。
- ※ FROM はマスターファイルにおける追加可能件数です。

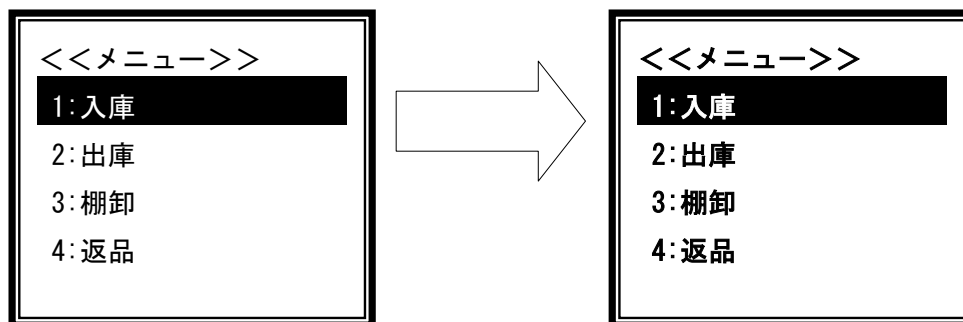
8.4.6 コントラスト調整

メニュー画面で[S]+[S1]又は[S]+[S2]を押下することにより、画面のコントラストの調整が行えます。

(1) 薄く



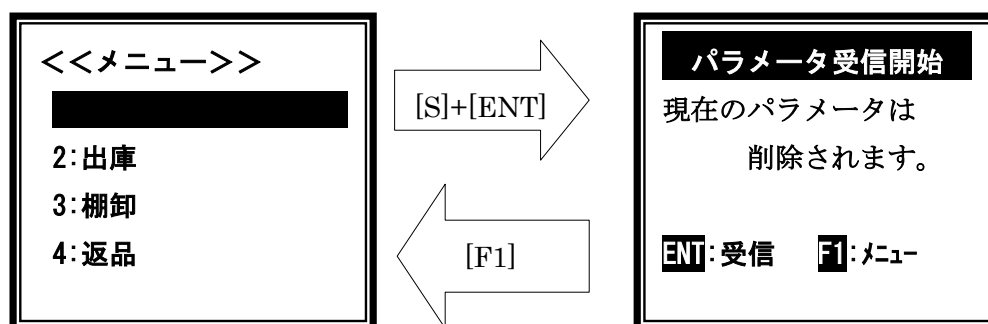
(2) 濃く



- ※ 調整は7段階あります。

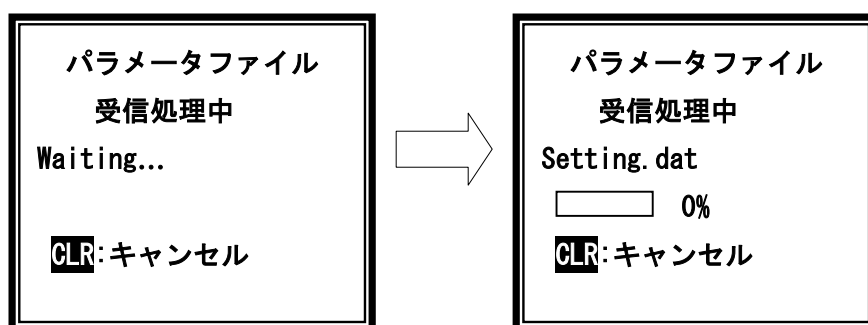
8.4.7 設定パラメータ受信

メニュー画面で[S]+[ENT]を押下することにより、設定パラメータ受信画面へ移行します。



- ※ [F1]の場合、キャンセルされメニュー画面へ移行します。
- ※ [ENT]を押下することにより設定パラメータファイル受信を開始します。

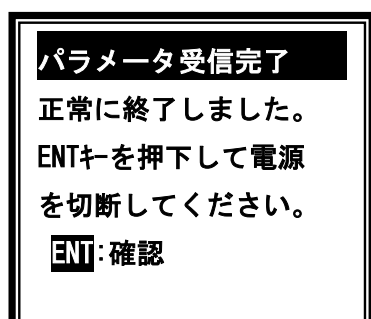
(1) 受信開始



- ※ 設定パラメータ受信の通信速度は、ターミナルで設定されている通信速度となります。
- ※ 設定パラメータ受信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終了した場合、パラメータ受信異常画面へ移行します。

(2) 正常終了受信開始

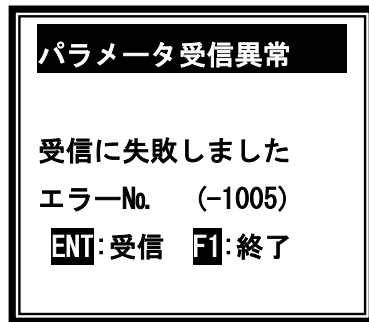
設定パラメータファイルを正常受信した場合、以下の画面が表示されます。



- ※ [ENT]を押下することにより、電源が切断されますので、電源切断後再起動してください。

(3) パラメータ受信異常画面

設定パラメータファイル受信を異常終了した場合、以下の画面を表示します。



※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。(エラーNo.は、「8.6.2 エラー詳細」を参照してください)

■ 受信 ([ENT]押下)

受信開始へ移行します。

■ 終了 ([F1]押下)

パラメータ解析ソフトウェアを停止し、電源を切断します。

(4) バージョンチェック

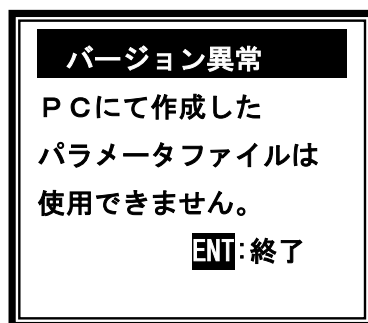
ターミナルソフトウェアバージョンとPCで設定された設定パラメータバージョンが一致するかの確認を行います。

① 正常の場合

設定値チェックへ移行します。

② 異常の場合

バージョン異常の画面を表示します。

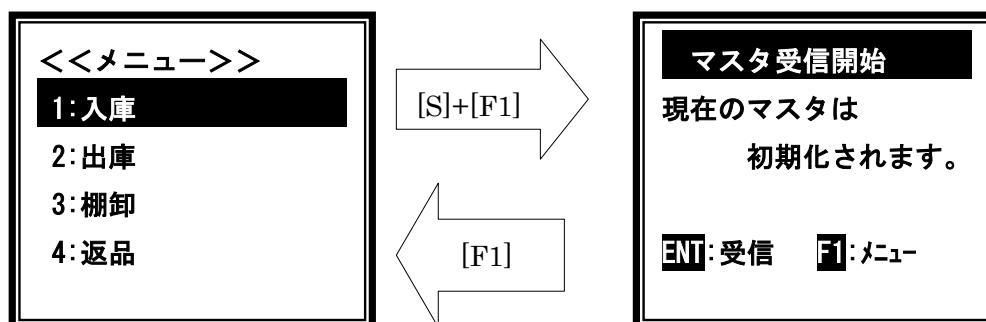


■ 終了 ([ENT]押下)

パラメータファイルを削除後、ターミナルの電源を切断します。

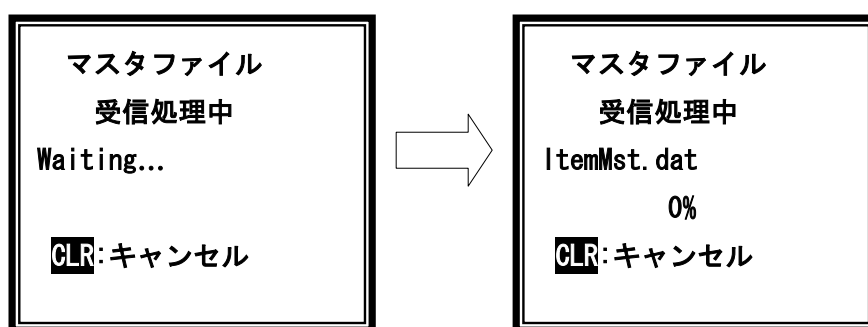
8.4.8 マスタファイル受信

メニュー画面で[S]+[F1]を押下することにより、マスタファイル受信画面へ移行します。



- ※ [F1]の場合、キャンセルされメニュー画面へ移行します。
- ※ [ENT]を押下することにより設定パラメータファイル受信を開始します。

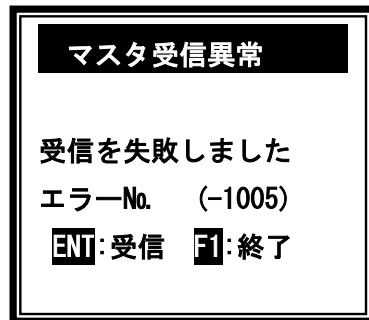
(1) 受信開始



- ※ マスタファイル受信の通信速度は、ターミナルに設定されている通信速度となります。
- ※ 設定パラメータ受信が正常終了した場合、メニュー画面へ移行します。
- ※ マスタファイル受信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終了した場合、マスタ受信異常画面へ移行します。

(2) マスタ受信異常画面

マスタファイル受信を異常終了した場合、以下の画面を表示します。

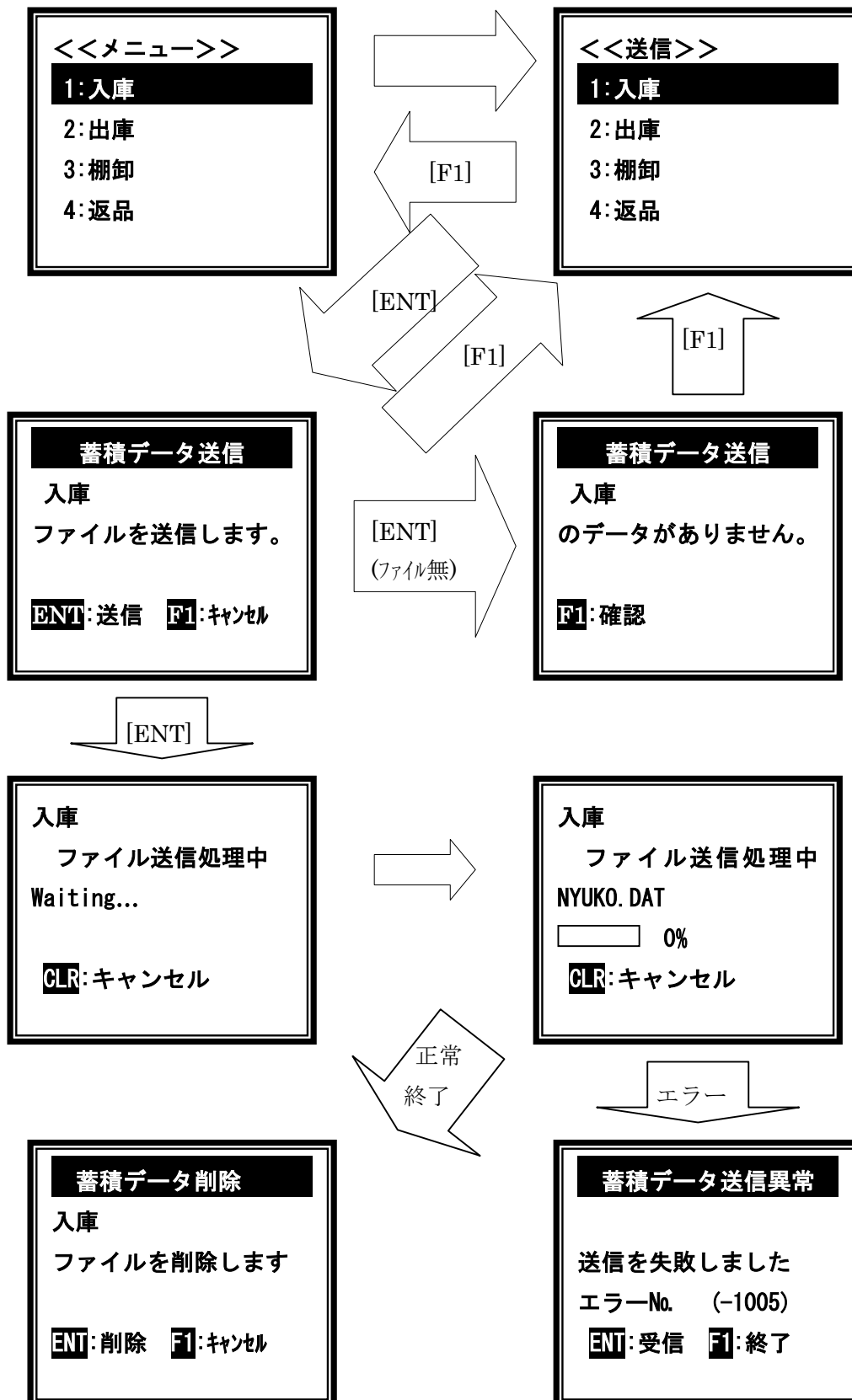


※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。(エラーNo.は、「8.6.2 エラー詳細」を参照してください)

- 受信 ([ENT]押下)
受信開始へ移行します。
- 終了 ([F1]押下)
メニュー画面へ移行します。

8.4.9 送信メニュー

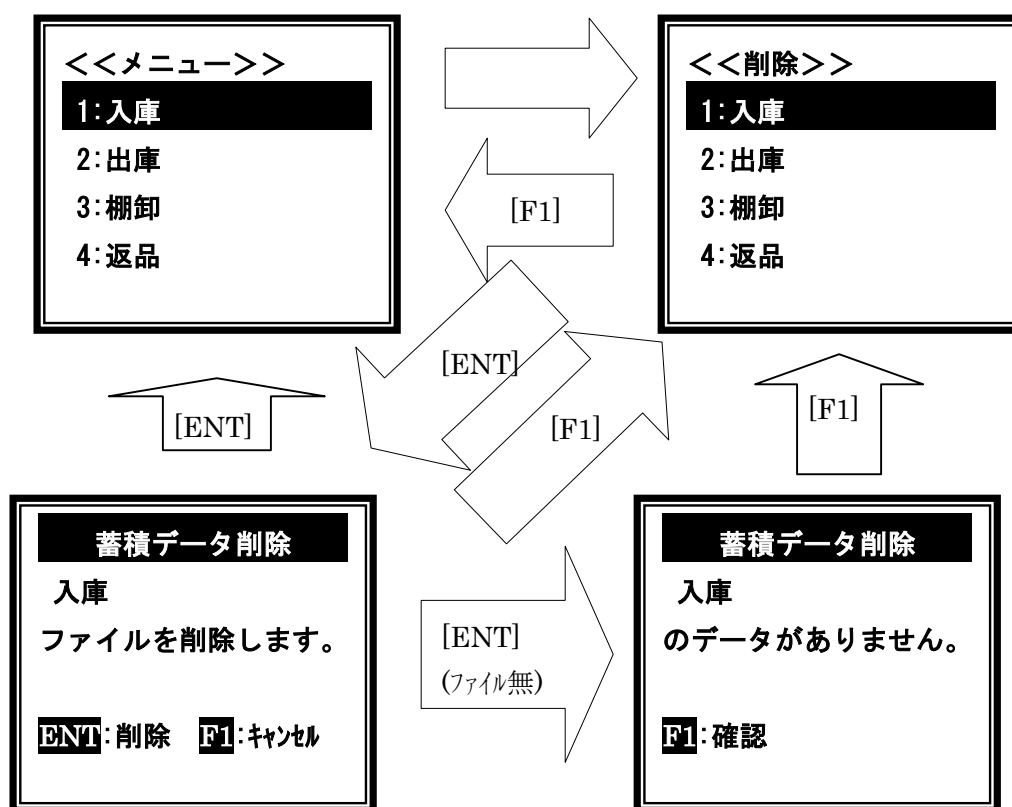
メニュー画面で送信 (キーは業務数により異なります) より、送信メニュー画面へ移行します。



- ※ 蓄積データ送信の通信速度は、ターミナルで設定されている通信速度となります。
- ※ 蓄積データ送信が正常終了した場合、送信済みデータの削除確認画面が表示されます。
 - 受信 ([ENT] 押下) ⇒ 削除します。
 - キャンセル ([F1] 押下) ⇒ 送信メニューへ移行します。
- ※ 蓄積データ送信が異常終了又は、[CLR] キー押下により強制終了した場合、蓄積データ送信異常画面へ移行します。
- ※ エラーNo. は異常の原因によって変化します。(エラーNo. は、「8.6.2 エラー詳細」を参照してください。)
 - 受信 ([ENT] 押下) ⇒ 再送します。
 - 終了 ([F1] 押下) ⇒ 送信メニューへ移行します。

8.4.10 削除メニュー

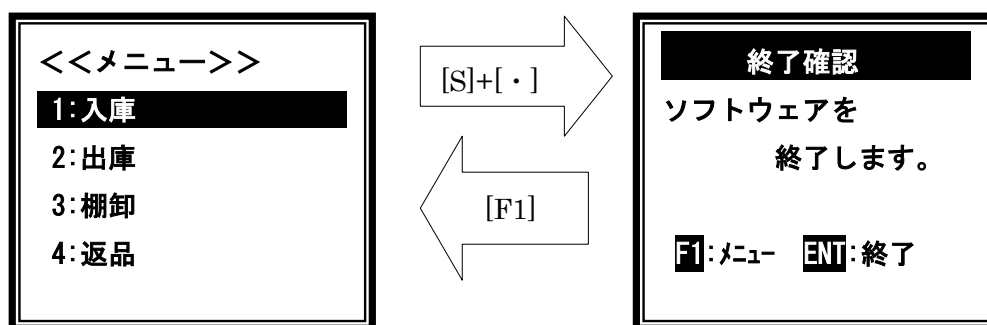
メニュー画面で削除(キーは業務数により異なります)より、削除メニュー画面へ移行します。



※ 蓄積データ削除が終了した場合、削除メニュー画面へ移行します。

8.4.11 電源切断

メニュー画面で[S]+[.]を押下することにより、終了確認画面へ移行します。



※ [ENT]を選択した場合、ターミナルの電源が切断されます。

※ [F1]を選択した場合には、メニュー画面に移行します。

8.5 業務入力機能

8.5.1 ファンクションキー機能(入力モード)

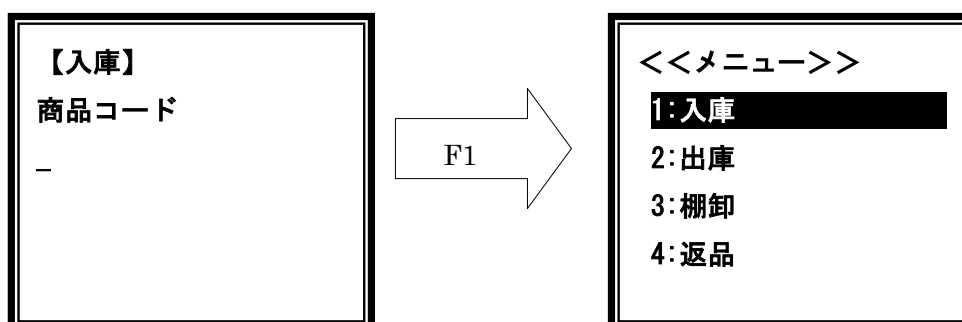
(1) キー一覧:各キーの機能と注意事項について説明します。

キー	通常入力	備考
F1	メニューへ移行	メニューへ移行します。
F2	無効	無効キーとして無視します。
F3	無効	無効キーとして無視します。
F4	入力項目戻り	1項目戻ります。(戻り先の入力データは削除されます)
F5	無効	無効キーとして無視します。
F6	無効	無効キーとして無視します。
F7	無効	無効キーとして無視します。
F8	無効	無効キーとして無視します。
S1	参照モード移行	参照モードへ移行します。(最後のデータから表示)
S2	参照モード移行	参照モードへ移行します。(最初のデータから表示)
TRG	トリガキー	バーコード読取できます。
0～9	テンキー	単純入力・チェック付入力・ジャンプ時に使用します。
ENT	確定キー	キー入力を確定します。
S	シフトキー	数字・英字入力の切替えを行います。
CLR	クリアキー	入力中の項目をクリアします。
BS	バックスペース	入力中の文字を1文字クリアします。
PW	電源キー	ターミナルの電源を切断します。

(2) 各キーの機能

■ [F1]キー:メニューへ移行します。

現在処理している業務を終了して、メニューに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

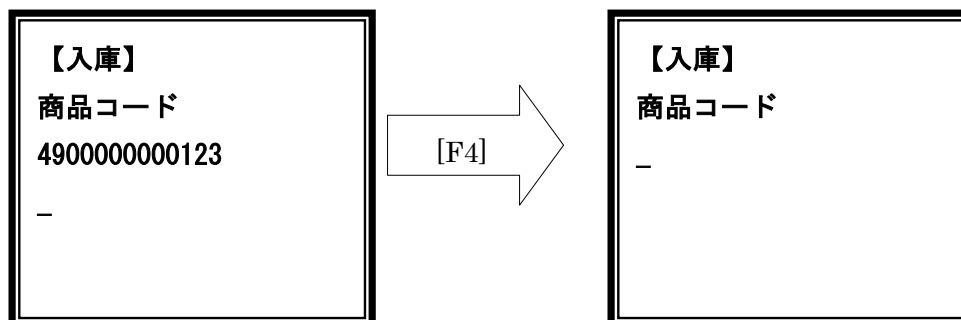


■ [F2]/[F3]/[F5]/[F6]/[F7]/[F8]キー:無効キーとして無視します。

画面は変化しません。

- [F4]キー: 1項目戻ります。(戻り先の入力データは削除されます)

現在の入力を中断し、1項目前の入力項目に移行します。(入力途中は無効キーとなります)

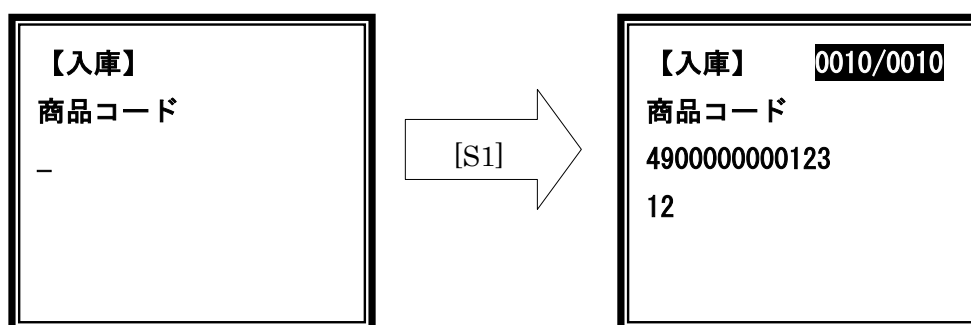


※ 最初の入力項目の場合、無効キーとして無視します。

- [S1]キー: 参照モードへ移行します。(最後のデータから表示)

入力済みのデータを参照する、参照モードに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

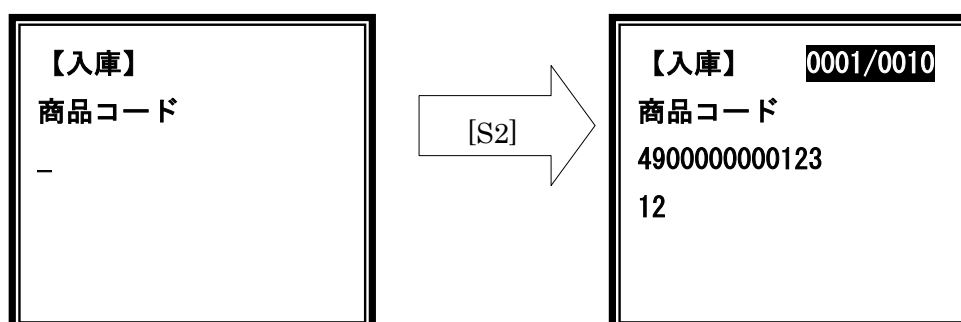
表示データは最後に入力した情報となります。



- [S2]キー: 参照モードへ移行します。(最初から表示)

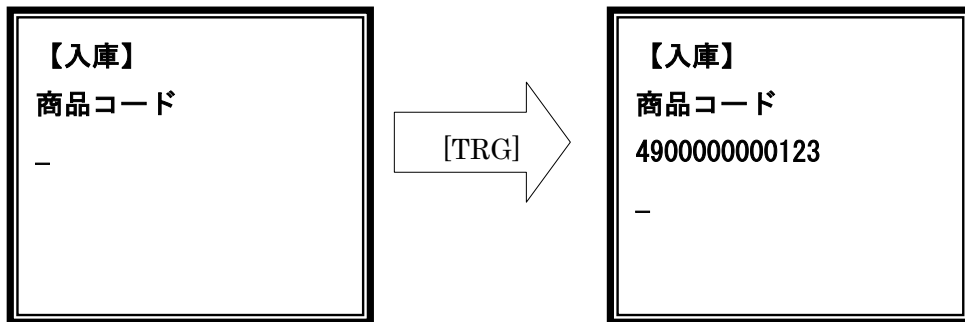
入力済みのデータを参照する、参照モードに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

表示データは最初に入力した情報となります。



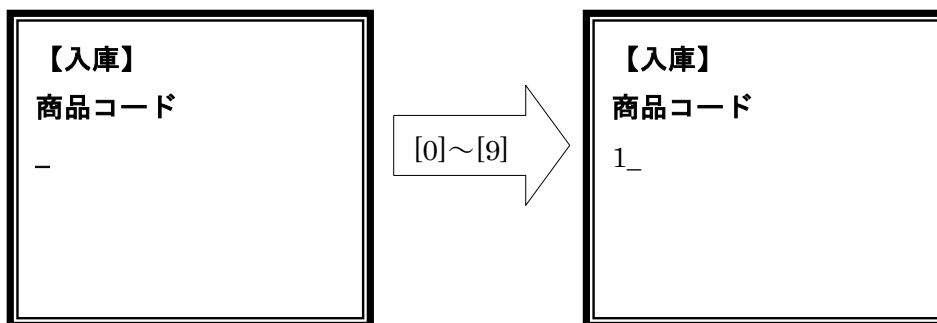
- [TRG]キー:バーコード読取時に、バーコード読取が可能となります。

バーコード読取許可設定でキー入力未入力の場合、レーザーを5秒間発光しバーコード読取が可能になります。読取後、次の処理へ移行します。



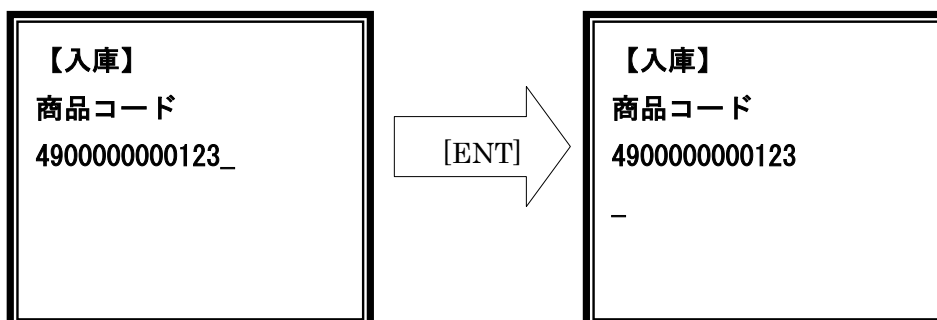
- ※ バーコード読取禁止設定されている場合、無効キーとして無視します。
- ※ キー入力1文字以上入力されている場合、無効キーとして無視します。

- [0]～[9] テンキー:単純入力・チェック付入力・ジャンプ時に使用します。
数値入力を行います。



- ※ 入力桁数を超えて入力した場合、無効キーとして無視します。

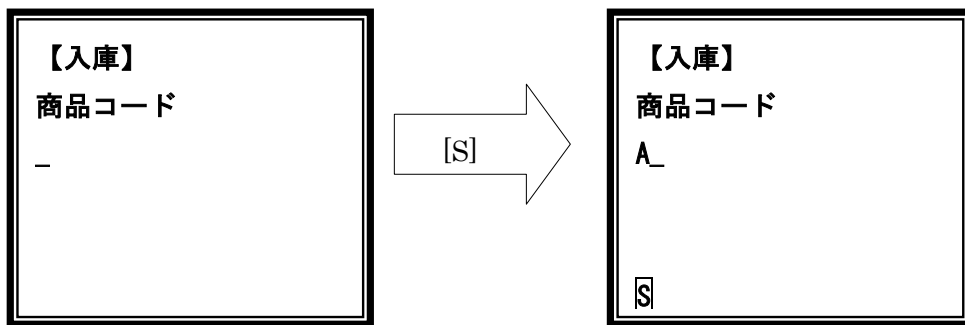
- [ENT]キー:キー入力を確定します。
入力済みのデータを確定し次の処理へ移行します。



- ※ 未入力の場合、無効キーとして無視します。

■ [S]キー:数字・英字入力の切替えを行います。

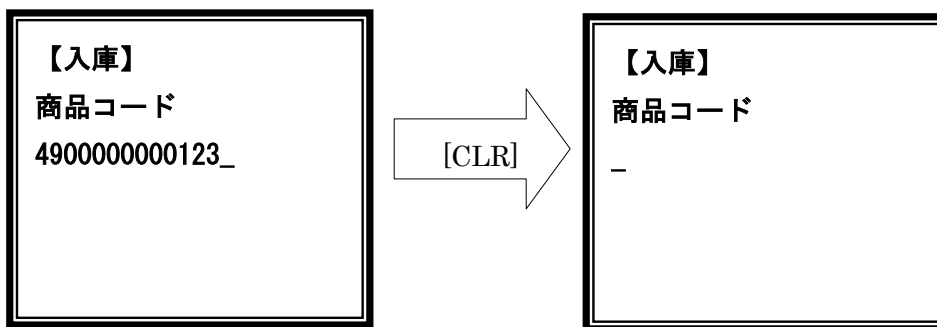
入力型設定で文字入力の場合、[S]キーを押下すると画面左下に[S]が表示され英字モードになり、再度押下すると[S]が消去され数字モードになります。



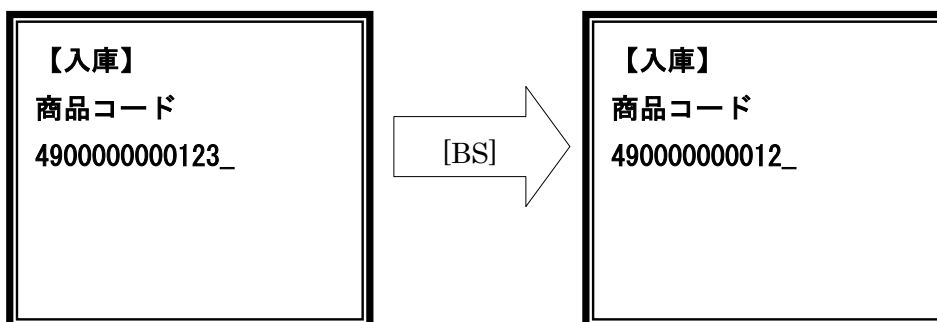
※ 入力型設定で数字入力の場合、無効キーとして無視します。

※ 英字入力は、数字キーを押下する毎に、その数字キーに割り当てられている英字あるいは記号が順次表示されます。文字を確定する場合、[ENT]キーにて確定して頂くか別のキーを押下することで確定します。

■ [CLR]キー:入力中の文字を全てクリアします。

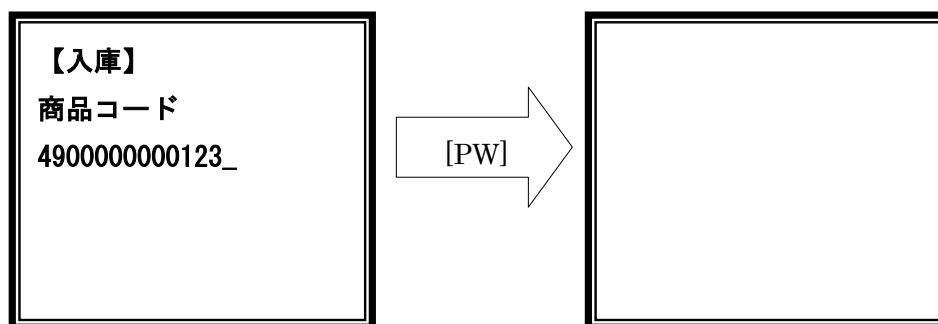


■ [BS]キー:入力中の文字を1文字クリアします。



※ 未入力の場合、無効キーとして無視します。

- [PW]キー:ターミナルの電源を切断します。



※ 次回電源投入時の起動は、レジューム設定に従います。

(3) マスタ照合機能

マスタファイルとの照合を行います。

- 照合結果:一致データ有り

①照合結果の表示設定有り

【在庫】

商品コード

49000000000000

商品名 1 ～ 2

=

※ 指定位置に照合結果データを表示し次の処理へ移行します。

※ 上記例はマスタ照合の次の処理が入力の場合です。

②照合結果の表示設定無し

【在庫】

商品コード

49000000000000

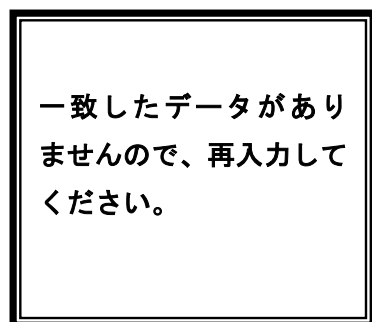
-

※ 指定位置に照合結果データを表示せずに次の処理へ移行します。

※ 上記例はマスタ照合の次の処理が入力の場合です。

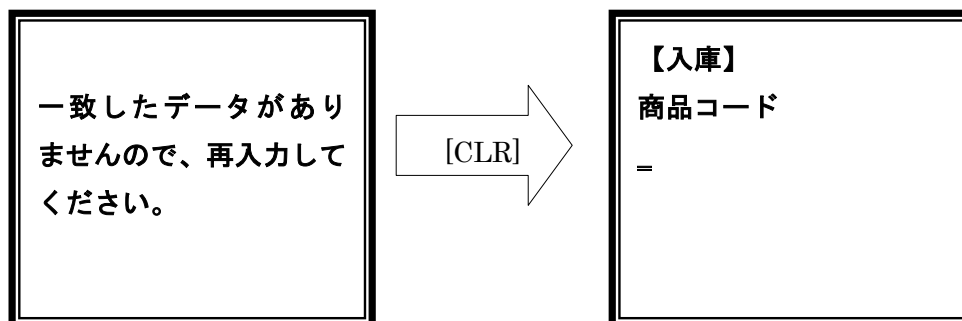
■ 照合結果:一致データ無し

一致したデータが無いメッセージを表示します。



※ 表示内容は、パラメータ設定内容に従います。

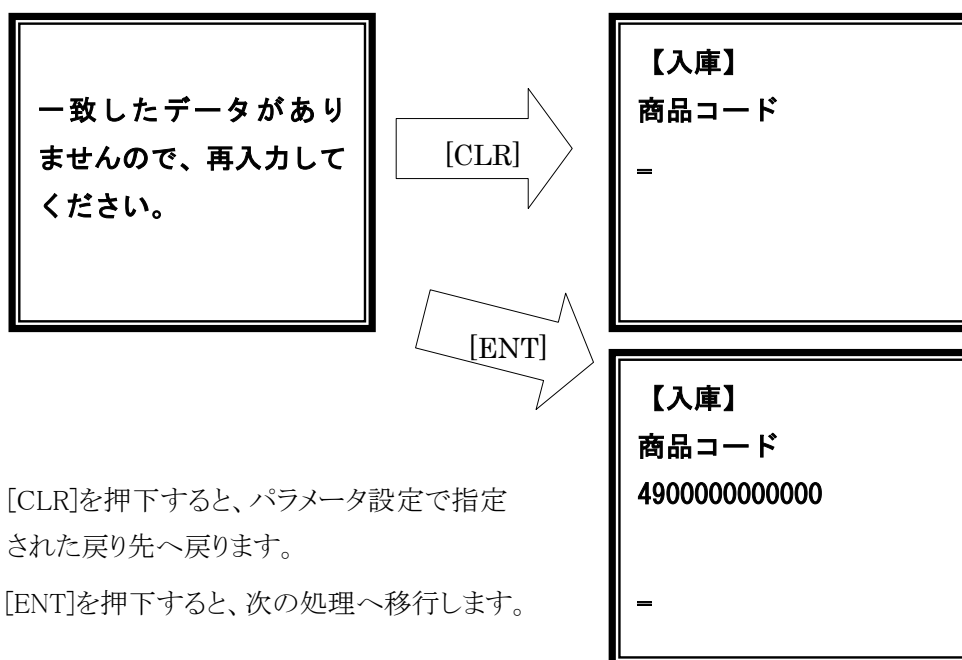
① 警告動作設定無し



※ [CLR]を押下することで、パラメータ設定で指定された戻り先へ戻ります。

※ 上記例は再度商品コード入力へ移行する場合です。

② 警告動作設定有り

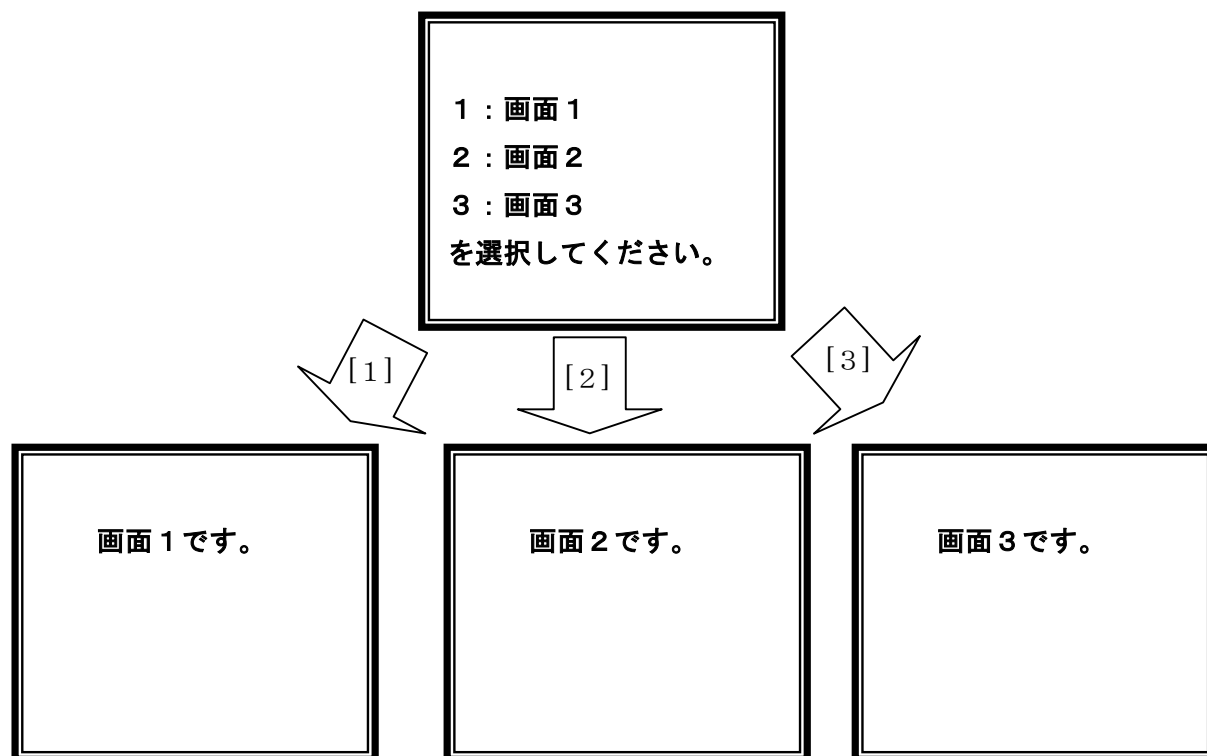


※ [CLR]を押下すると、パラメータ設定で指定された戻り先へ戻ります。

※ [ENT]を押下すると、次の処理へ移行します。

(3) キー分岐機能

キー入力による分岐を行います。

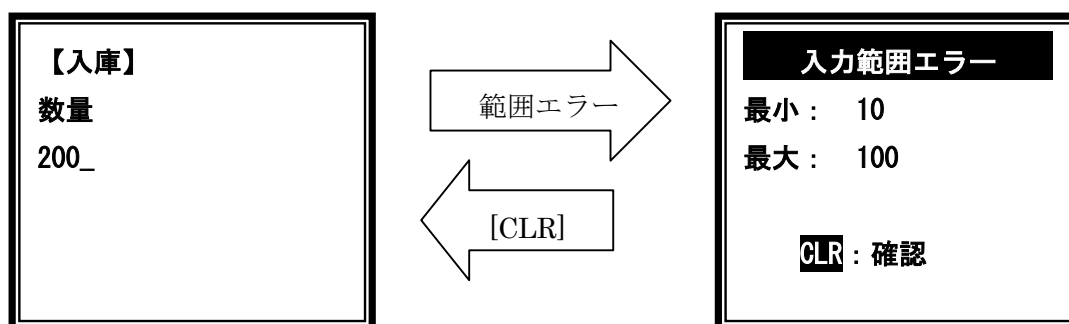


※ [1]～[3]を押下することで、パラメータ設定で指定された処理へ移行します。

※ 上記例は画面更新へ移行する場合です。

(4) チェック付き入力機能

キー入力時に範囲チェックを行うことができます。



- ※ 範囲エラーの場合、エラー画面が表示されます。
- ※ [CLR]を押下することにより、再入力が可能です。
- ※ 正常入力の場合、次の処理へ移行します。
- ※ 設定パタメータ設定で、チェック付入力を選択することによりチェック付き入力が行えます。

8.5.2 ファンクションキー機能(参照モード)

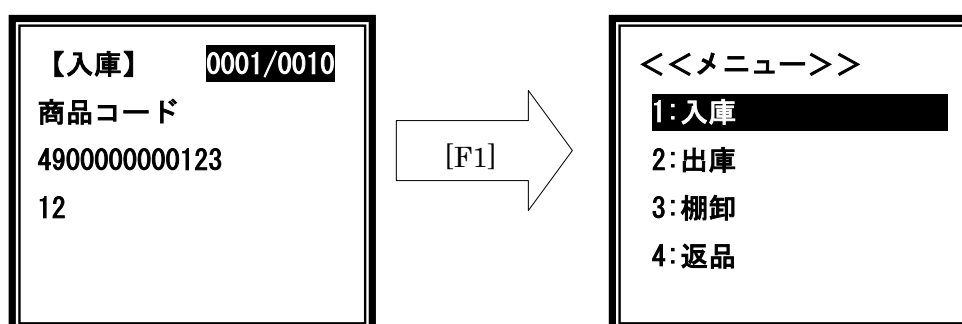
入力モードから[S1]/[S2]キーを押下することにより参照モードへ移行し、既に入力されている情報の参照及び、削除を行うことができます。

(1)キー一覧:各キーの機能と注意事項について説明します。

キー	参照モード	備考
F1	メニューへ移行	メニューへ移行します。
F2	前画面切替	複数画面が有る場合、前画面の表示を行います。
F3	次画面切替	複数画面が有る場合、次画面の表示を行います。
F4	削除	参照データを削除します。
F5	無効	無効キーとして無視します。
F6	無効	無効キーとして無視します。
F7	無効	無効キーとして無視します。
F8	無効	無効キーとして無視します。
S1	前レコードデータ参照	前のレコードデータの表示を行います。
S2	次レコードデータ参照	次のレコードデータの表示を行います。
TRG	トリガキー	無効キーとして無視します。
0～9	テンキー	無効キーとして無視します。
ENT	確定キー	無効キーとして無視します。
S	シフトキー	無効キーとして無視します。
CLR	クリアキー	無効キーとして無視します。
BS	バックスペース	無効キーとして無視します。
PW	電源キー	ターミナルの電源を切断します。

(2) 各キーの機能

■ [F1]キー:メニューへ移行します。



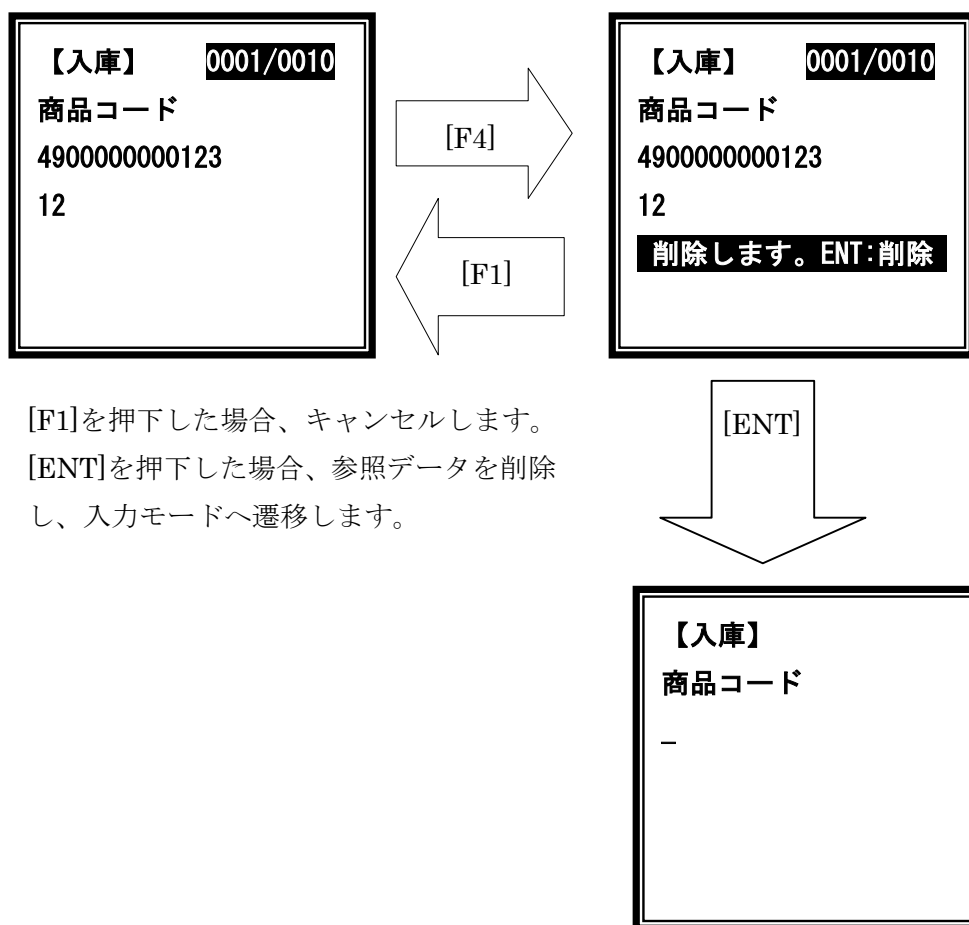
現在処理している業務を終了して、メニューに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

■ [F5]/[F6]/[F7]/[F8]/[TRG]/[0～9]/[ENT]/[S]/[CLR]/[BS]キー

:無効キーとして無視します。

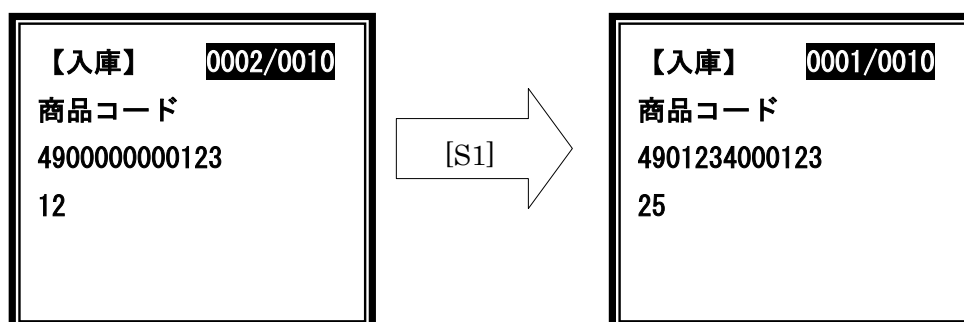
画面は変化しません。

- [F4]キー:参照データを削除します。
現在参照しているデータを削除します。

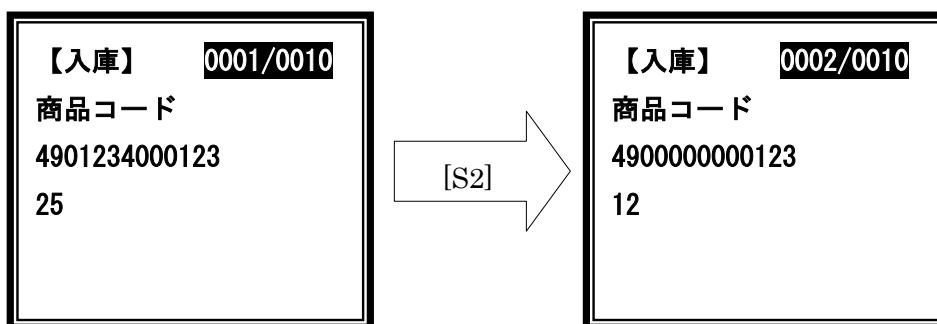


- ※ [F1]を押下した場合、キャンセルします。
- ※ [ENT]を押下した場合、参照データを削除し、入力モードへ遷移します。

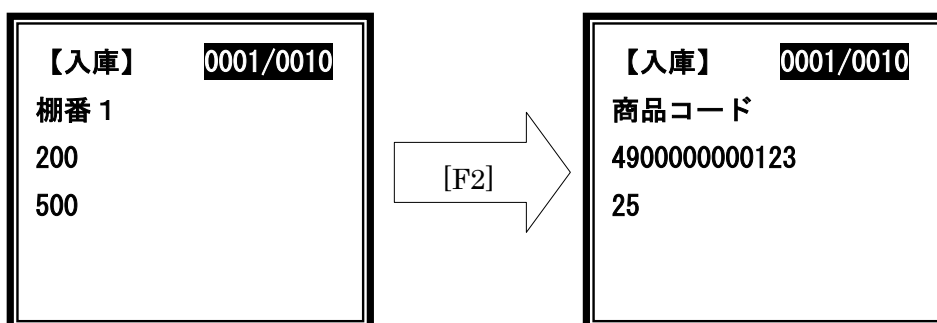
- [S1]キー:前レコードデータの表示を行います。



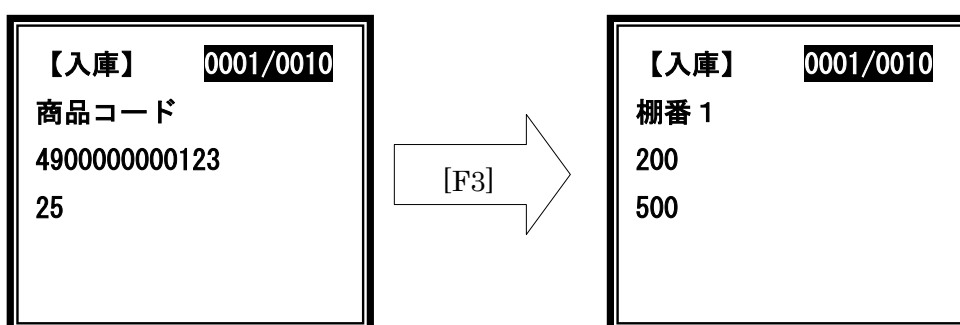
- [S2]キー: 次レコードデータの表示を行います。



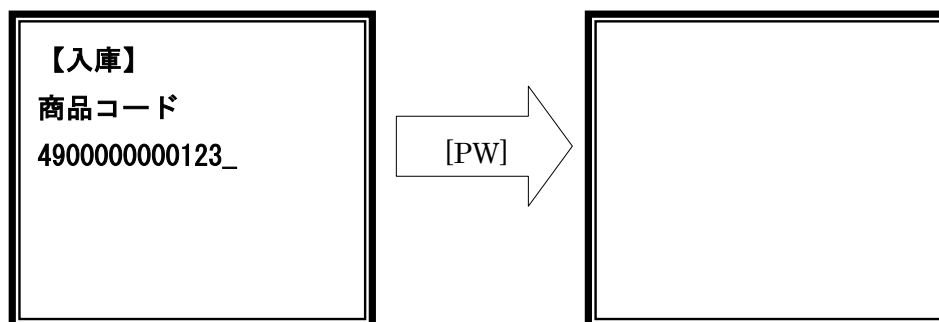
- [F2]キー: 前画面データの表示を行います。



- [F3]キー: 次画面データの表示を行います。



- [PW]キー:ターミナルの電源を切断します。



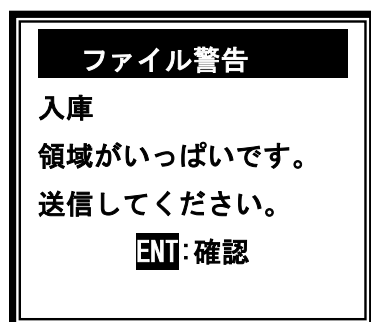
- ※ 次回電源投入時の起動はレジューム設定に従います。

8.6 注意事項

8.6.1 注意事項

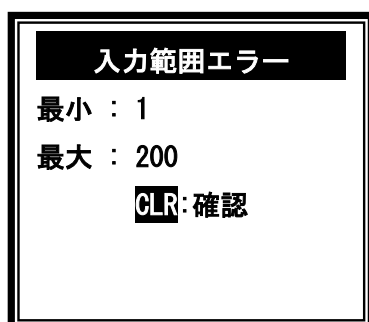
注意事項について説明します。

- (1) 設定パラメータファイルを受信した場合、既に入力されたデータは削除されます。
- (2) ターミナルを起動した場合、本システムと関係無いファイルは削除されます。
- (3) マスターファイル・設定パラメータファイルのダウンロード中にキャンセルした場合、ファイルが削除される場合があります。
- (4) ターミナルソフトウェアと、PC で作成した設定パラメータファイルのバージョンが異なる場合は動作しません。
- (5) ターミナルの電源を切断した場合、次回起動時にどこから起動されるかは設定パラメータファイルのレジューム設定に従います。
- (6) マスターファイルは5000件以内で作成してください。
- (7) 入力可能容量は、1業務7000件以内で全業務で約850Kバイトまでとなります。
(削除したデータもファイル容量として計算されます)



※ 業務が入庫の場合の例となります。

- (8) チェック付き入力で範囲外エラーとなった場合、エラーメッセージを表示します。

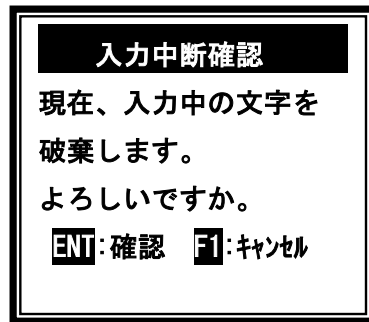


※ 入力が1～200以外を入力された場合の例となります。

※ CLRを押下することにより再入力となります。

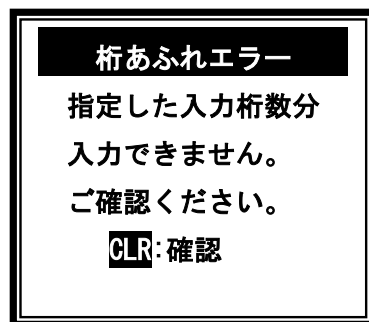
- (9) マスタ照合でエラーとなった場合には、設定パラメータファイルで指定したメッセージを表示します。
- (10) 入力可能容量がいっぱいになった場合、(7)のメッセージが表示され入力ができなくなります。
- (11) ファイルへの書込みは、全ての項目が終了した時点で自動的に書込みます。
- (12) 設定パラメータファイルのフォント指定により、表示可能文字数等が変化します。
- (13) メニュー画面も、設定パラメータファイルのメニュー表示設定の内容で変化します。
- (14) 1文字以上キー入力をしている場合、ファンクションキーは無効となります。

- (15) 1項目以上入力している場合に、有効なファンクションキーを押下した場合、以下の入力中断確認画面を表示し、入力済みのデータを破棄するかどうかの判断を行います。



- ※ ENT を選択した場合、入力済みデータを破棄し、ファンクションを有効にします。
- ※ F1 を選択した場合、入力へ戻ります。

- (16) 単純入力・チェック付入力において、入力位置（X 軸）＋入力桁数が 1 行の最大桁を越えた場合、以下の画面を表示します。



- ※ ENT を選択することにより、入力を中断しメニュー画面へ移行します。

- (17) 画面更新等の表示において、入力位置（X 軸）＋入力桁数が 1 行の最大桁を越えた場合、超えた分は破棄されます。
- (18) 蓄積データアップロード及び、マスタファイルダウンロードは、MET コミュニケータ（別売）のイーजीモードにて操作可能です。
- (19) MET コミュニケータ（別売）でマスタファイルのダウンロードをする場合、マスタファイルの情報が指定キーにより昇順にソートされている必要があります。
（指定キーは、PC 側の設定内容に従います）
- (20) PC で設定されたパラメータは、必ずターミナルで動作確認後ご使用ください。
（PC 上での設定は動作保証までするものではありません。）

8.6.2 エラー詳細

(1) 通信関係

種別	番号	名称	内容
通信	-1001	未対応コマンド受信	ターミナルが対応していないコマンドを受信
	-1002	CRC エラー	受信パケットの CRC 値が計算値と異なる
	-1003	コマンドエラー	ターミナルのモードと対応していないコマンドを受信
	-1004	オプションエラー	コマンドのオプションに無効な値が入力されている
	-1005	処理中断エラー(ターミナル側)	ターミナルからの中断キー押下による処理終了
	-1006	処理中断エラー(PC 側)	PC からの通信キャンセルの受信による処理終了、または、PC 側のファイル書込エラー（書込禁止）が発生
	-1007	通信エラー	ファイル転送中にエラーが発生、または通信プロトコル上でのエラーが発生（YMODEM）
	-1008	シーケンスエラー	受信パケットのシーケンスが一致しない（イージーモードのみ使用）
	-1501	ポーリングタイムアウト	ポーリングコマンドを送信したが対象のターミナルからは指定時間内に応答がなくタイムアウトが発生
	-1502	受信エラー（CRC エラー）	受信パケットの CRC 値が計算値と異なる
	-1503	N A K再送エラー	エラーが発生して再送要求をリトライ回数分行ったが正しいデータが受け取れなかった
	-1505	タイムアウトエラー	PC で指定時間(通信のタイムアウトをリトライ回数分試行して)を越えて応答がなかった
	-1506	シリアルポート使用中エラー	通信中にコマンド送信関数を実行した後から実行した関数がエラーで終了する
	-1507	シリアルポートオープンエラー	オープン済みのシリアルポートを再度オープンしようとした
	-1508	転送処理中でない	ファイルアップロード／ファイルダウンロード／アプリケーションインストール関数実行中以外に転送キャンセル関数を実行した
	-1509	ハンドルエラー	オープンで取得したハンドルを使用していない
	-1510	シリアルポート未オープンエラー	ポート未オープン時に通信を行おうとした
	-1511	ブロック番号反転値エラー	アップロードでブロック番号反転値が一致しない
	-1512	ブロック番号エラー	アップロードでブロック番号が一致しない
	-1513	応答データエラー	ターミナルから受信した応答データが不正
	-1514	ファイル属性取得エラー	アップロードでファイル属性情報受信に失敗

(2) ファイル関係

種別	番号	名称	内容
ファイル	-2001	ファイル書込みエラー	ファイルの書込みに失敗
	-2002	ファイルシステム空きサイズエラー	ファイル作成のための空きサイズがターミナルに足りない
	-2003	ファイルシステム未フォーマットエラー	指定したファイルシステムが未フォーマットである
	-2004	ファイル未検出エラー	指定したファイルがターミナルに存在しない、または扱えない ファイル名を指定した
	-2005	ファイルオープン中エラー	指定したファイルがオープン中である
	-2006	ファイル作成数オーバーエラー	ファイルシステムが作成できるファイルの最大数をオーバー している
	-2007	ファイルリネームエラー	ファイル名変更において、新ファイル名が指定したファイルシ ステム内に既に存在する、または扱えないファイル名を指定し た
	-2008	ファイルリネーム失敗	FROM ファイルシステムに対してファイル名変更を行った
	-2501	ファイルサイズエラー	ファイルアップロードで、ファイル属性情報のファイルサイズ のフォーマットが正しくない、または取得したファイルサイズ と実際にアップロードされたファイルのサイズが一致しない
	-2502	P C 空き容量不足エラー	アップロードしようとしているファイルのサイズ分を格納す るだけの空き容量が P C にない
	-2503	P C ファイル無しエラー	P C に指定したファイルが存在しない
	-2504	P C フォルダ無しエラー	P C に指定したフォルダが存在しない
	-2509	同名ファイル有リエラー	同名ファイルが既に存在するときの操作が「アップロードな し」指定になっているときに同名ファイルが存在した
ファイル	-2511	ファイル未ロード	そのファイルのアップロード／ダウンロード処理を行う前に 通信処理が異常終了した
	-2512	ファイル名長エラー	指定されたファイル名やアップロード時のファイル属性情報 のファイル名が扱える長さより長いもしくは短い

(3) ソフトウェア関係

種別	番号	名称	内容
ソフト	-8000	パラメータファイルサイズエラー	設定パラメータファイルのサイズが間違っている
	-8001	マスタファイルサイズエラーその 1	マスタファイルサイズオーバー (128 バイト×5000 件以上)
	-8002	マスタファイルサイズエラーその 2	マスタファイルサイズが 1 レコードの倍数以外 (1 レコード 128 バイト)
	-7001	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (キーバックライト)
	-7002	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (バックライト時間)
	-7003	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (自動電源 OFF 時間)
	-7004	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (レジューム)
	-7005	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (キークリック)
	-7006	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (バーコード正常読取ブザー鳴動)
	-7007	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (キークリック時の LED 点灯)
	-7008	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (パイプレータ)
	-7009	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (起動画面表示)
	-7010	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (フォント設定)
	-7011	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (業務数)
	-7012	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (メニュー画面表示モード設定)
	-7013	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (システム表示領域使用)
	-71XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (業務名)
	-72XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (タイムスタンプ設定)
	-73XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (ターミナル ID 設定)
	-74XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (データ書込みタイプ設定)
	-75XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (字詰め設定)
	-76XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (項目数)
	-77XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 (データファイル名)

9 蓄積データファイルフォーマット

本アプリケーションでは、入力項目（単純入力・チェック付入力）を蓄積データファイルに記録します。

記録方法としては、CSV 形式と固定長方式があります。

付加情報に関しては、パラメータ設定におけるメイン画面のデータ編集方法設定で指定します。

9.1 CSV 形式

データ・付加情報をカンマ区切で記録します。

データは、実際に入力された桁数で記録します。

付加情報	データ	付加情報
001	4912345678901,100	04/04/30,12:00:00
001	4912345678911,200	04/04/30,12:01:00
001	4912345678922,300	04/04/30,12:12:00
001	4912345678933,400	04/04/30,12:15:00
001	4912345678944,500	04/04/30,12:30:00
ターミナルID	入力項目1	入力項目2 日付・時間

9.2 固定長形式

データを固定長で記録します。

固定長の場合には、左詰め・右詰めをメイン画面のデータ編集方法設定で指定します。

データは、パラメータ設定における項目設定画面内の入力形式の桁数で記録します。

入力されたデータが桁数以下の場合、空白で埋めます。

付加情報	データ	付加情報
001	4912345678901001000	04/04/3012:00:00
001	4912345678911002000	04/04/3012:01:00
001	4912345678922003000	04/04/3012:12:00
001	4912345678933004000	04/04/3012:15:00
001	4912345678944005000	04/04/3012:30:00
ターミナルID	入力項目1	入力項目2 日付・時間

10 困ったときは

本アプリケーションが動作しないときの対処の仕方を説明します。

No.	項 目	対 応
1	ターミナルとの通信ができない。	①PC設定の COM ポートは正しいですか。 ②PC 設定の通信速度はターミナルと一致していますか。 ③光通信ユニットのディップスイッチは正しく設定されていますか。 ④ケーブルは抜けていませんか。 ⑤光通信ユニットの AC アダプタは接続されていますか。 ⑥ターミナルの電源が切れていませんか。 ⑦ターミナルの ID 設定は正しいですか。 ⑧同一のターミナル ID を持つ複数のターミナルを光通信ユニットに置いていませんか。 ⑨USB のドライバーはインストールされましたか。 ⑩タイムアウトが発生している可能性がありますので、ポーリングタイムアウト値を長くしてください。
2	英語版 WINDOWS において使用可能でしょうか？	使用できません。
3	起動後、すぐに終了してしまいます。	既に立ちあがっていませんか。
4	通信時間が異常に長い	データをとりこぼし、何回もリトライをしている可能性があります。 ①通信速度を遅くしてください。 ②負荷がかかるプロセスを終了させてください。
5	ターミナル1台では通信できるが、同時に2台接続した場合に通信できない。	①ターミナルが同一 ID になっていませんか。 ②光通信ユニットのディップスイッチは正しいですか。
6	PC アプリケーションの項目設定画面の画面イメージが文字化けします。	表示位置や入力位置が他の項目と重なっている場合、文字化けしたような表示になります。重ならないように設定してください。
7	ターミナル画面に■が表示される。	第三水準文字コードを指定していませんか。 ターミナルに表示できない文字を指定されている可能性があります。 ①ANK 文字コードとして 0x20～0x7E,0xA1～0xDF が可能です。 ②全角文字コードとして第一水準と第二水準が可能です。
8	マスタファイルの内容を変更したが、ターミナルへ反映させるには？	マスタファイルをターミナルへダウンロードしてください。
9	アクション設定が動作しない	①業務メニューと、アクション設定が間違っていないですか。 ②アクション設定に設定された実行ファイルが間違っていないですか。 ③アクション設定に設定された実行ファイルのパス名は間違っていないですか。 ④業務メニューのファイル名が間違っていないですか。
10	マスタ照合結果の表示設定を行っているが、次の画面が表示される。	項目設定で、マスタ照合の次に画面更新を設定していませんか。マスタ照合結果表示後、すぐに次の画面更新を表示しますので、表示されていないように見える可能性があります。
11	パラメータ設定はあっているが、桁あふれエラーが発生する。	12ドットで作成したパラメータ設定を、16ドットに設定していませんか。
12	英字入力時に、画面表示された文字が消える。	システム表示領域を非表示にして英字入力を行った場合、英字入力記号([S])が画面最下段の左に固定表示されますので、画面表示に重なる場合があります。システム領域を非表示にして英字入力する場合の画面の設計時に画面最下段の左を使用しないようにしてください。
13	パラメータファイルをダウンロードしたが、設定が変わらない。	PC とターミナルの転送指定設定が一致しているか確認してください。 例) PC がマスタファイル送信、ターミナルが設定パラメータ受信の場合

お問い合わせ

日本システム開発株式会社

本社

〒550-0013 大阪市西区新町1丁目7番20号 システムギア大阪ビル
TEL 06-4391-9880 FAX 06-4391-9878

営業拠点

東京

〒105-0014 東京都港区芝1丁目10番11号 コスモ金杉橋2F
TEL 03-5730-1200 FAX 03-5730-1201

名古屋

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目10番19号 市川ビル4F
TEL 052-221-9388 FAX 052-212-4403

大阪

〒550-0013 大阪市西区新町1丁目7番20号 システムギア大阪ビル
TEL 06-4391-9881 FAX 06-4391-9879

宝塚

〒665-0045 宝塚市光明町30番12号
TEL 0797-74-2201 FAX 0797-74-2211

福岡

〒812-0014 福岡市博多区比恵町3番17号 フェイズイン博多ビル2F
TEL 092-432-2130 FAX 092-432-2136

技術的なお問い合わせは

サポートデスク E-MAIL : support@nsd-inc.co.jp

最新情報はインターネットをご覧ください。 <http://www.systemgear.com>

おことわり

- (1) 本書の一部あるいは全部を無断で転載することは固くお断りします。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。
- (4) 本書を使用した結果の影響については(3)項にかかわらず責任は負いかねますのであらかじめご了承ください。

AppliBuilder 取扱説明書

2004年 5月 17日 第1版発行

発行 日本システム開発株式会社

宝塚テクニカルセンター
〒665-0045 兵庫県宝塚市光明町30番12号

(BK0047A02-1)

